

第4回保健医療協力プロジェクト

リーダー会議資料

昭和55年度

プロジェクト別年次報告

1.	バングラデシュ	家族計画	1
2.	インドネシア	家族計画	9
3.	インドネシア	中央生物医学研究所	45
4.	インドネシア	北スマトラ地域保健	53
5.	インドネシア	看護教育	65
6.	ネパール	西部地域公衆衛生対策	79
7.	タイ	地域保健活動向上計画	87
8.	ガーナ	ガーナ大学	101
9.	ケニア	伝染病研究対策	143
10.	チュニジア	薬品品質管理	157
11.	グアテマラ	オンコセルカ症研究対策	165
12.	ペルー	地域精神衛生向上	175
13.	アルジェリア	オラン科学技術大学 医療センタープロジェクト	179

医療協力部

昭和56年2月

医 一
J R
81-4

国際協力事業団	
発入 月日 84. 5. 23	000
登録No. 07262	90.7 MCF

copy 已全編入 1 部

局長 代表 印	局長 代表 印	局長 代表 印	局長 代表 印	局長 代表 印	局長 代表 印	局長 代表 印	局長 代表 印
---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------

報告書

() 年 () 月 () 日

56年 1月 7日

国際協力事業団
總裁殿

昭和55年年度報告書

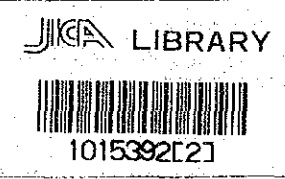
第 号

氏名	山下 亨子
指導科目	家族計画
現住所	4/A Rd No. 27 BANANI, DACCA-13
通信連絡先	%EMBASSY OF JAPAN, NO.1, SHANTINAGAR, DACCA-17
勤務機関名および住所	ZPG PROJECT, DND, DACCA.

1. 昭和55年度事業実績について

(1) 事業計画

- 1) 家族計画と母子保健活動
- 2) ZPG 病院の診療開始
- 3) 婦人科の職業訓練
- 4) Dai の研修
- 5) 本格的な研修
- 6) 学校教師の衛生教育



(2) 事業実績

1) 2014年(昭和55年)に引き続き DND の地域のカンパニーと共同して ZPG 病院を中心に 7ヶ所の FWCC をカンパニーとして家族計画の普及と母子の健康管理を行った。特に避妊手術(受妊は母親) 避妊薬、避妊器具の使用者を優先し、その健康管理に注意した。又、妊婦も家族計画の受入者であり、特に貧しい家族も、低栄養状態の母子には、World Food Programme から配布された穀類、豆類、油、ミルク等を定期的に配布し、その母子の体重測定も行った。簡単な保健指導を行った。又、54年からの低栄養対策の一

(No. 1.)

部で婦人検診車が届き 9月保健人口家族計画
省大臣之贈呈式を行い その後巡回検診を開始
した。この婦人検診車での検診は、DNDを中
心に、2PG病院やFWCの近く、T-バスが集
まってくる住民を対象に6ヶ所の場所を指定、9月
より定期的に診療を開始した。この非常に住
民から歓迎され DND以外のThanaからの要
望をさぐりては、Daccaより1時間以内で行ける
所、又フリーツプなどの医療施設が近くにあり母
子保健、家族計画のサービスが受けにくい地域
として検診車の条件を考慮して希望をとり、3ヶ所の
Thanaを決定した。 したがって10月より巡回診療
を開始した。当初一般患者の診療相談も3ヶ所
計画であったが、検診を開始してからは100名
以上の患者とその家族が集まり、私と2人のFWVで
2日時間内に終了が事出来なくて 二回回から、
家族計画の係りの人の受入者とこの5ヶ所以下の子供
妊婦を対象に特事にした。このため30~40名ほど
1回の検診が出来なくて 住民からは不満の声があり回
数を減らしてほしいとの強い要望があった。又、この婦
人検診車では診療はできず、家族計画のサービス
~~を~~を受け入れたいとの希望が強く、
新婚登録を計画中である。これは新婚の妊婦にのみ
婦人を対象に 家族計画について教育相談を
行うのである。又、保健人口家族計画省大臣も巡回
診療に中心を置き、より多くの地方へのサービスを要
望している。今のところ、巡回時間が増える事から
予定を増やそうと考えている。

(No. 2.)

2) 当初の予定より半年間を遅れて完成ができたが、病院と
12の建物の出来上がり、手術室、病室の一部が病院
としての機能を開始した。その後、DNDで避妊手
術センターを計り、2月、4日間にわたって、3人の
医師により、200名の避妊手術を行った。又5月より
現地人産婦人科医師2名が決定、7月より土日
曜日を除く毎日1~10名の避妊手術を行った。
このZPG病院が出来た途は、避妊手術の希望者は
Dacca市内迄送られる中、多くは遠くまで、病院との
連絡、交通、家族の事など多くの問題があった。
しかし現在は避妊手術の希望がそれだけ増え、
不可能である事、顔見知りのスタッフがいた。又術後
問題がそれだけ、病院や近くのFWCで相談治療
を受ける事が出来る事となった。安心した手術を受け
たメンバーへの信頼感が増し、住民への心も
行く所々様々であった。

3) DND地域には32の婦人クラブがあり、そのメンバーは
約850名に及ぶ。この組織活動の目的は、
メンバーの職業訓練とし、経済の向上、生活の向
上、家族計画の普及を目的としている。そこで昨年
に引続きメンバーの代表者をDNDの中心として研
修、日本から借与した機械材を使用して洋裁、編
物、刺繍の770名ほどの訓練を行った。6ヶ月後、
技術テスト、パーテストを完結、研修を終了、各地
域の婦人クラブに伝達講習を行っており。又、ミニ
編機を他4ヶ所のZPGクラブに
配布したため、その使用方法と、指導者の養成

訓練とこの事、各ZPGの20名以外は洋裁、
編物について、各1名づつ合計8名をDNDの
セミナーで1週間の研修を行った。研修最終
日技術テスト、ノーパーテストを行い終了式を
実施した。その後、これ以外の20名以外に帰り、
遠講習を行っている。各ZPG以外 officer の1名
はこれらにFBと、日本からの機材の借与と研修
に感謝にたり、指導には4人かいるとこの事である。

4) 1月より3ヶ月間、家族計画と母子保健についての研修
を行った。これは政府からの奨励であり、各FWC
でその責任者である^(E)FWVについて実施した。又
11月、研修を終了して100名余のDaiをDND
のセミナーで医師より2日間の研修を実施。最
後に日本から借与したHome Delivery 表紙
を配布した。Daiは特に地域住民への接触
が深く、正しい知識の導入により母子の健康管
理、家族計画を効果的に重要な要素として扱

5) 6) これについて、現地例の予算不足で55年以内は実施
出来ずのこと。又5月より10月迄は雨期のため研修
時期としては適当でなく、又それより乾季10月
予算の都合が7月より55年度の終了までに全画にわた

本プロジェクトは昭和55年を末として5年間のP/Dが終了。昭和55年12月に調査団が訪れた。それ以前に現地政府からZPGが二次5年計画が提示されP/D延長の要請がされた。当初、ZPGプロジェクトは家族計画のみが中心のプロジェクトとして、家族計画と母子保健 薬食の改善 教育水準の向上 地域開発事業と結合させる事によって、家族計画を効果的に実施 人口の増加率をゼロにするという目的であった。これは全国に5ヶ所のZPG地域が選ばれる。その内の1ヶ所DNDを日本政府が協力援助する事になった。1982年ZPGプロジェクト発足後中央政府レベルでの予算不足等により、当初の計画を変更延期等によりその目標が大幅に遅れた。1982年日本からは、現地政府の当初の計画に従い医療機材や検査 医薬品を送りこんで来た。一部の薬品は便用（？）という使用期限が短く、専ら永滞在中に使用予定の機材が計画の遅れにより未使用のままであり使用期限の満了が近くなり、又機材到着の頃施設がまだ完成していなかったため盗難予防等の送られて来た梱包の多くは破損してプロジェクトとしては送られて来た機材も使用し得ない結果は十分ではなかった。又中央政府レベルの大幅な目標の遅れに対して、地味な活動をしていこうとした。人口増加率の成果が目撃された。当初、~~人口~~増加率3%と推定されていたDNDは1980年6月の統計では1%（ZPG平均1.5%、全国平均2.5%）避妊薬 器具の使用率約60%（ZPG平均36%）という結果が出た。今年発表された二次5年計画では、ZPGプロジェクトの成果を高く評価。現在のZPGプロジェクト 5 Thana に対して4ヶ所を対象として、新しく95 Thana を増設する計画である。

2. 昭和56年度事業計画について

(1) ZPGが二次57年計画の事業内容について報告 これに
577年度計画を定める予定

1) 目的: ZPGの国以外人口増加率平均1.5%から0%にする。

2) 事業内容

(1) 家族計画の宣伝 ~~と~~ 報の広報活動

(2) 母子保健活動、乳児、栄養、改善。

(3) 婦人組織活動の奨励。

主に職業訓練を行い 経済的向上 家族計画
の普及を目的とする

(4) 青年男女の組織活動の奨励

家族計画の普及と共に職業訓練 教育活動
を行う

(5) 教育活動

文盲進級の成人学校 夜学校と交換
青年組織、婦人組織 車道を通りて
教育活動を行う。

(6) 住民登録

70国以外への活動と将来の計画を以て基礎
とする 住民登録を確立する 特に出生、死亡
住民の移出入 家族計画の対象者等を
記録しておく。

(7) 研究について

~~事業内容の成果を反りて~~

事業内容の成果を反りての指導者、
ワーカー等関係スタッフの研究を行う。

(2) 本部との関係において

1) 機材購送及び機材の現地調査

昭和54年頃より、政現地政府の政策方針に於り通関が非常に手広くなり、印刷物以外に、石印の課税もされている。又通関する迄の事務手続の煩雑で、非能力的な事務による無駄な日数の経過、人海難儀などを見れば、現地調査は、その外にと云っても非常に有効である。是非考慮に値する。

2) 専門家派遣計画

現地政府に要請のある医師の派遣が決定。

3) カウンターパート受入れ計画

昭和56年度はカウンターパートの受入れが2名という事であるが、日本側の条件として英語が出来る事、女性と人遣に限られて来る。今のところ適当なカウンターパートがない。そこで、現地側の案としては、英語が出来る5~6名を単位としてクルーとして、その内1人をクルーリーダーとして、通訳者として英語の出来るスタッフを1ヶ月位の期間に研修の希望がある。

④. 昭和55年度実績に対する自己評価及び相手側関係者の評価振りについて。

昭和56年3月2日終了村P/Dの延長をBa側から申請した。その資料にZPG 率はDNDの人口増加率の低下を評価し。前年度54年計画ではZPG 70%以上とThamaを100 Thamaに下す旧ZPG 70%以上の成果を目標としている。又、今年度の初め女性村会議員15名がDNDを語る。現地サイトに関するZPG 70%以上の延長と機材の支援をLPCという声明が述べられた。又最近、村P/Dの保健衛生課のTeamが語る。その他内外の家族計画関係者が多岐にわたる。この結果家族計画の中心地域として自己評価が述べられていると思ふ。

以上。

(注)

Dai (村の伝統的財産家でFWVの管理の下にある)

FWV (Family Welfare Visitor)

FWC (Family Welfare Center)

Thama (郡)

DND (Dammara Narayanganj Dacca, 地産)

ZPG (Zero Population Growth)

國際協力事業団
医療協力部長殿

年次報告書

インドネシア国家族計画部以外

内 容

1. はじめに
 2. 昭和55年度事業実績
 3. 昭和56年度事業計画(案)
 4. 昭和55年度事業実績に対する評価
 5. 事業団本部に対する意見要望等
を承る
- 添附資料

昭和56年1月

國際協力事業団派遣
インドネシア計画部内家

田中正智

インドネシア国家族計画プロジェクト年次報告書：昭和55年度

1 はじめに

インドネシア国家族計画プロジェクト（以下MPCプロジェクト）は、東京大学東洋文化研究所をボランティアとして昭和52年度から国際協力事業団（以下単に事業団）のプロジェクト方式による援助活動として開始された。半田石雄三、山田反久両長期専門家をはじめとする多くの人の協力の結果、インドネシアの国家族計画（以下F.P.）を推進させるための制作作業のためのMedia Production Center（以下MPC）がジャカルタ市内国家ラジオ放送局（RRI）内に設置され、スタッフのTVインタビューがはじめられた。

日印両政府間のRecord of Discussions（以下R/D）が昭和55年3月期間を満了したことに伴って、国家族計画調整委員会（以下BKKBV）副委員長Dr. Sarmento、国家族計画局長Dr. Haryono Suyonoを日側代表、上記東京大学東洋文化研究所を日本側代表として新設のR/Dが署名交換された。

この新R/DのANNEX Iに記録されているMPCプロジェクトのマスコミボランティアの概要は次の通りである。

1. 本プロジェクトの概要

本プロジェクトはMedia Production Center (MPC) にある諸活動は東京を拠点として情報普及、教育情宣に国際諸活動は中心に国家族計画に直接連関する他の活動を促進させることを目的とする。

2. 本プロジェクトの実行 (Implementation)

インドネシア共和国国家試験計画調整委員会 (BKKBNU) は Advisory Committee (注: ANNEX VI (記録: 日・イ双方のメンバー組織)) に付随して併せて本プロジェクト実行に關した責任を負うこととする。

日本政府は専門家の派遣、日本におけるインドネシア要員のトV-リンク及び機材の調達は、インドネシア政府の本プロジェクト運営に協力することとする。

3. 本プロジェクトの主な実行活動 (Activities)

本プロジェクトの主な活動はAV装置 (注: 視聴覚装置) を中心とした software prototype の開発方法を研究・改善することであり、次の諸活動から成ることとする。

(1) Audio-Visual 教育・情宣方法の研究・改善

(2) 本プロジェクトに参画するインドネシア人スタッフのトV-リンク

(3) 必要に応じて相互に合意されるその他の(案)連日活動
(由中談)

新R/DのTHE ATTACHED DOCUMENT I~IXと付けた合意
と、これのマスタープランに基いて実施した活動は
本年度事業実績、これに基づき来年度事業計画(案)
ならびに同実績に付する評価等について事業用本部の
命により、本年度プロジェクトの大きな流れを總結し、来年度
実施計画策定に資するため、既上提出した業務報告書
(目次と巻末に添付)および事務連絡(一覽表と巻末に
添付)等を要約することとし、4-6(長期専門家1名)の
意見を加えて、これを年次報告書として提出する。

2. 昭和55年度事業実績

R/DのTHE ATTACHED DOCUMENTに示される日本側の実行計画のImplementationの各項目すなわち II. DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS, III. PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT, IV. TRAINING OF INDONESIA PERSONNEL IN JAPAN (三つは前年の277-703に於て再掲を以ていた)の実績は、R/Dに277-703に示されて Activitiesの最終の概要は、R/Dに述べられてある。

なお R/DのANNEX IVに要項が示されてある LIST OF INDONESIA STAFFについては、4月1日迄7ヶ所の名簿が提示された。事務連絡書80-17号で報告の通り、Project manager Dr. Haryono Suyono、指導部長 部長 Dr. Haryono Suyono、副部長 Drs Bambang Suryopramata、書記 Dra. Sumarni ほか顧問3名。

宗務部長 部長 Mr. Tantarawan (PRI 国内放送局長)、副部長 Dra. Sumarni、日常係長 Mr. Asto BA、部長補佐 Mr. Sumarsan SKM、同 Mr. Turipto, DS. BA ほか技術員27-7710名事務員27-772名 運転手3名である。

2.1 MPC Projectの Implementation

2.1.1 日本人専門家の派遣

R/D ANNE II JAPANESE EXPERTS に要項が示されてある 専門家の派遣は下部の通り実施された。

(1) 長期専門家

山田友久専門家 4月3日 帰任、後任として 田中正智 4月18日 着任。A175-4の最終報告は、約2週間の空白が生じた。MPC 27-7710 及び 27-7710 の大下 27-7710

(No. 3)

はかたが、現地で業務引継ぎが完了した後は、2007年度の
後の活動、特に長期・短期専門家派遣用A125-4 取付件
内2名派遣(所)修員用A2-3 25-6 取付件:25W(=54年度
供与機材引取り)の各事務手続促進に少くも支障
をきたさぬ。在一般側は長期複数派遣に反対。(事務連絡書
同80-8号参照)

(2) 短期専門家

藤崎恒世、木下延博、西島内家 9月17日着任。藤崎
専門家はコンピュータ制作技術について、木下専門家は
ビデオ機材の保守、修理技術について、MPC2977
保研者・BKC/N各スタッフに於いて“Advanced Training for
Video Technique”を行ない各スタッフの shooting
技術の向上に多大の成果をあげた。(事務連絡書10号参照)
西島内家は在一般側から任期延長の申請がなされ、藤崎
専門家も予定通り10月5日帰任したが、木下内家の(国内)
延任は10月11日帰任した。

2.1.2 供与機材

R/D ANNEX III LIST OF THE ARTICLES I=要項が示さ
れた供与機材については事務連絡書80-2号及び同
80-6号の報告の通り54年度分の取付に7月24日までに検収
完了した側担当者は引渡した。概要下記の通り。

(1) 一般機材 (43,000千円)

Time Base Corrector 2台, Video Projection System
2台等。

(2) 特別機材 (53,000千円)

Family planning Educational kit, Answer checker
等。

(3) 複製機材

PAL SYNC Generator Modules 等。

(4) 田中恭介様

Talking Card Player さん

なお、(1)の3 Time Base Corrector (TBC) 日本製の
当初の何用(指定)計画に更し、BKKBN/ons 国営テレビ
放送局(TVRI)に寄贈された(事務連絡本80-7号参照)
以外は有効に使用されている。

2.1.3 日本におけるインドネシア人の研修

事業団は如く事務報告第84号(5月9日付)で受入計画につき
割当枠3名の通知を案じ、1人の事情を以て深が澤水さん
7月17日最終的に合意(事務連絡本80-5号参照)VA2-3
答給申請の手続を固形に、なお1人の強い要請で1名
増枠につき事業団本部の格別な「御慮をいたさ

Mr. Rosita Sada (MPC) ビデオ機械修理班

Mr. Sumarsono (MPC) ビデオカメラ制作班

Miss Sulandjari Rahardjo 同上

(BKKBN DKI SKT TV-25029)

Mr. Mintowaluyo (MPC) 同上

4名を10月24日東京向け出発、研修の末返りて11月
29日帰国に。

2.2 MPC及び管内各の Activities

2.2.1 F.P. 教育・情宣方法の改善

MPCにはビデオ、写真、印刷各メディア制作の3部内
があり、そのうち前述のビデオ班に^ておき、F.P.教育・
情宣用のメディア制作に^て管内各の指定に當つ
ている。なおMPCが国営テレビ放送局(RRI)内に
あり、実務部長(Director)が国内放送部長である関係上、
F.P.推進用ビデオ放送用メディア制作(度)とされている。

(No. 5)

各部門の活動状況の概要を下記の通り。

(1) ビデオタイプ制作

一般市民向け教育情宣用タイプは前年度に比べて3ヶ所に設置されたテレビ（街頭テレビ）に作品を放送している。またTDRからMPCの作家が試験的に放送される見込み。F.P.南進行事の際には通訳も終了している。

タイプの内容はほぼ毎月集められるKBビデオ（F.P.館のための歌謡ビデオ：主に双1スタジオで行われる）あるが家庭計画、南進行事等もMPCのスタッフが取材したものを編集し、さらにF.P.宣伝用スライド70374を挿入している。

また、若手医師、看護婦等の職場教育用タイプの制作も行われている。

取材・展示（上記を9-10以外）活動一覧表および主要作品一覧表を巻末に添付した。

(2) 写真タイプ制作

F.P.教育情宣用スライド、ポスター等情宣用の写真を制作している。主要作品一覧表を巻末に添付した。

(3) 印刷タイプ制作

南進の印刷物をもち、F.P.教育情宣用パンフレット、カレンダー、ポスターの7-20の7-20を制作している。主要作品の一覧表を巻末に添付した。

2.2.2 MPCスタッフのトビニ

MPCのスタッフに対しては原則として取材現場、編集の段階にある作家の批評を通じていわゆる on job training を行っている。またアドバイザーを5名としている。

また、この3ヶ月間の不況命令のため、下記に示す組織的・物的支援の基盤を積極的に参加を促している。

(No 6)

短期専門家を中心として行われたい。

(1) Mrs Martha Stuart 1-83 VTR 講習会: 1A14A~20A
本州既出の招請で未同から来ている Mrs Martha Stuart
一行に83講習会から山田管内家協力のついでに南信越まで。

MPCスタッフのほか BKKBN、TVR1のスタッフも参加し
MPC専用スタジオでビデオ700974制作技術の研修を
行った。(山田管内家報告書参照)

(2) 全国F.P. XTP制作研修会: 5A26A~31A
BKKBNが主催し、

山田管内F.P. 65所の BKKBN 及び TV-27 地区で
MPC 専用
TV-T-1 を集めて開催されたこの研修会は Mr. Tamtrawan,
田中、MPCスタッフ(2名)、BKKBNスタッフ及び山田管内家協
員からなる講師陣で、F.P. XTP制作体験に
ついて研修を行った。MPCスタッフも参加した。(事務報告書
5A5/12号参照)

(3) 全国F.P. 視聴覚XTP制作研修会: 8A25A~9A40

BKKBNが主催し、全国27 province から各1名のF.P. 及び
TV-T-1 地区のTV-T-1 から山田管内/MPC専用スタジオ
に集まったこの研修会(5(2)と同じ講師陣で)
F.P. XTP制作体験について研修を行った。MPC
スタッフも参加した。(事務報告書8A5/15号参照)

(4) Advanced Training for Video Technique: 9A23B~10A11

2.1.11に山田管内藤岡、本村両管内家には Mr. Tamtrawan
及び田中の講師陣が来訪してこのTV-27には MPCスタッフ、
BKKBN、保羅省のスタッフも参加し、ビデオ700974制作
技術の8mmビデオ機械保守・修理技術について MPC 専用
スタジオで研修した。(事務連絡資料-10号参照)

なお(2)(3)には MPC スタッフが技術的知識の向上を
講義、宗習の講師として積極的に参加した。

通関自給学への配慮記。

2.2.3 外国人来訪者 = 邦語 P.R. 等

1月から3月末の期間に上記 Mrs. Matha Sutuast (印)
(邦語). Mr. Francisco Laguno (FAO Rome Italy), Mrs.
Gail Waldson (Bay Video Calif USA) 等と外国人
(除日本人) が MPC に来訪し、由島門家におき、説明記。

4月以降 田中が直接おき、外国人来訪者下記通り。

(1) Mr. Prathama Kongsupto (5A)

Media/Material Specialist UNDP/DTCP Bangkok

UTR と 邦語、16mm U-C 相互複写の件

(2) Mr. Ramesh Bhatta, Mr. Hari Bhandi Kashatri (7A)

Mr. Mukunda Raj Baidya

FP/MCH Project Information Education and Communication
Div. Kathmandu Nepal. 邦語制作、16mm = 邦語制作

(3) Mr. Jose Miguel R. dela Rosa (8A)

Ms. Cecilia C. Verzosa

Planning Officer Population Center Manila

邦語制作、16mm 全片に邦語字幕

(4) Fred W. Reed Ph.D UNFPA (10A)

UTR の件 邦語

(5) Mr. Mohd Sam Haji Omar Mrs. Ali Lion Omar (11A)

Mr. Haligah Mohd Din Mr. Amal bi Hussin

邦語制作 邦語、16mm

(6) John Reed Ph.D, Ms Nancy Piet UNFPA (11A)

邦語制作 邦語

(7) Mrs Yvette Abrahamson UNESCO Paris (11A)

Mr Jaehue

UNICEF

邦語制作 邦語

11. 同様に本邦の用件につき、訂正せ、コンピュータ・バージョン(行)別 MPC の P.R. を行なふ。作品を履録し、批評を求めた。
特記(5)の一行に付した MPC 各部門の班長が中心となり、
ビスタ、写真、印刷の所管修を行つた。また(7)の Mrs.
Abrahamson からビスタタイプを UNESCO へ寄贈
申込みを、申請あり、タイプを国際間で交換取付
示唆あり(業務報告書 11月分/第8号参照)

2.3 専門家独自の活動

2.3.1 勧告、提案 申入れ

MPC 700 プロジェクトを効果的に進め、
700 プロジェクトの Implementation についで、
Activities^{と整備}、及び JICA/JAPAN の協
同後の P.R. についで Project Manager 等に
提案、申入れを行つた。

これら勧告等の一覧表を巻末に添付した。

2.3.2 情報収集

MPC 700 プロジェクトの推進に役立ち
るべく、3rd Asian Nutrition Congress
(9月)、PKBSI-83 年 2 月 2 日 所管修
に付し(9月、11月)、BKKBN/TV-25 年 2 月 2 日
71-1117-1-1-1 (12月)、International
Seminar on the Advances in Contraceptive
Technology (12月) 等に
参加し、情報収集につ
き、(業務報告書 12月分/第9号参照)

2.3.3 教材、参考資料の作成

作成した教材、参考資料(含翻訳)の一覧表を巻
末に添付した。

3. 昭和56年度事業計画(案)

Project Manager の Integrated MPC (I-MPC) 構想 (業務報告書9月分付録、事務連絡第80-15号参照) と態度。この本202
以外の突然に訪来した。9月に来たのはわが国の技術協会の
に付随して BKPA/ans の "Extension of the Media Production
Center Project" (以下単に "Extension") の要請が部分的
に7月5日日本側に受入れられることと期待した。昭和56年度
以降の事業計画(案)については、先づ大綱と業務報告書9月分付
録に展望するべく "I-MPC (TUR1) の重要性と当面の問題点"
(事務連絡第80-15号付録) を通じ事務局本部に提出した。
さらにこの内容の英文を要約して "A ^{Temporary} Recommendation
on the Implementation of MPC Project in 1981 and
1982" (事務連絡第80-16号付録) を Project Manager に
提出した。

これらに述べた56年度事業計画(案)の骨子に次の通りである。

3.1 Project の Implementation

3.1.1 日本人側内容の派遣

(1) 長期要員内容

① ビデオ/テープのレコーディングの作業の指導。これはレコーディング
もビデオ/テープ制作の指導と行われる内容。

② ウードワープ全般の保守・修理について指導を受ける内容。

(2) 短期要員内容

ライティング、音響効果、写真撮影、写真処理、印刷技術
イラストレーション、ペイント、教育技術、教育機器の
指導と行われる内容を逐次派遣する。

これらに加えて全体を掌握する4-44-5、及び
2-21-6-5を派遣する。

3.1.2 機械供与 ("Extension" 合 2階)

(1) 取捨第六報用車の配備

TVカマ、VTR等一帯を設備用車にMPCに配備し
取捨の機軸性を増し現場への輸集、住民への対応に
制作にX¹(PA執行)等MPCに各支店BKKBV支部に
=25%増設=設置するにMPCに於て技術指導を
可能にする。

(2) ビデオ機械

現在のビデオ機械を順次改造規格にするに
規格は5V-10P-70V、現在の機械はMPCに
使用可。

(3) 写真、印刷機械

MPCに必要のX¹印刷制作は必要の機械を
(2)及び(3)に示す如き設備、請願に於て
必要の機械を確保可。

(4) F.P. 技術指導用機械、材料

BKKBV車印及び各支部に於てF.P. 技術指導に
必要とする機械、材料を確保可。

3.1.3 内地派遣研修員

ビデオの制作、機械保守修理、写真処理、
印刷等には、放送レベル、放送管理、
教育技術、教育機器の各分野に派遣可。

3.2 MPC's Activities

基本計画は5年度に提示した "TOWARDS PROMOTION OF
MPC'S ACTIVITIES" 及び "A Proposal on Activities
of Media Production Center" の案に基づいて制作、
29日整備するにMPCの運営(内)に有る助言を
行なう。

制作は、テレビやテレビの制作とMPCスタッフのTV-エンターテインメントについて、以下に示す方向が中心に積極的に指導、助言、提案をお願いする。

3.2.1 F.P. 教育・情報方法の改善

- (1) 56年中期の BKCBN 主催の中心に「業務計画国際化」の中心として、同様に「国際化」に於ける「教育用」テレビ制作を促す。
- (2) 近き TVRI 及び MPC の作品が放送可能に済んだと期結ぶもの、放送用テレビ制作を促す。
- (3) BKCBN が世銀融資で配備する地域広報用モニターが稼働開始後、中心に「2.2.1」に述べたように TV 用に加えてモニター用テレビ制作を促す。
- (4) I-MPC 構想の主要な部分として、MPC (TVRI) が完成した後、MPC (RRI) は広報の教育用テレビ制作に主力を置くものと予測されるので、教育用テレビ制作の普及を推進する。
- (5) 写真、印刷、テレビについて、中心として積極的に BKCBN 本部に協力し、採用を促す。

3.2.2 MPC スタッフの TV-エンターテインメント

2.2.2 に述べた 55 年度の場合と同様に on job training を実施し、短期間の集中を中心として専門性の高い Advanced Training を企画し、各スタッフの専門性を促進し、技術を一層向上させる。

なお、スタッフの「一歩」の進歩を奨励するため、下記の如き備えを提案する。

- (1) MPC スタッフに於ける ASEAN 各国の F.P. Media 制作状況視察。(BKCBN 主催、SICA 後援)
- (2) 各国 F.P. テレビ制作担当者から作品を積極的に紹介し、批評を行う「ASEAN F.P. テレビフェスティバル」(BKCBN 主催、SICA 後援)

3.3 事業計画(案)に対する個別の反応

4-64-5-1, 2-71名-5の派遣(専任者の増員)については従前の経験(事務連絡第80-4号, 同第80-8号 事務報告第7月分/第4号 等参照)からR/Dの改訂を含めて個別に意見を折衝を必要と判断されている。その他以外に上記 "Recommendation" につき意見の大半が相違は認められず "Extention" 要請を日本側が如何に受止めるかのMPC 700プロジェクトの推進金額にわたって大きく影響が及ぼす点に注意される。

3.4 事業団本部との関係について

上述の事業計画(案)の基本構想については2次の通り提案する。

3.4.1 機械贈送: 供与(個別に提案中) ("Extention" を除く)

(1) 一般機械

取付前右報専用車(含装備) 約 60,000 円

(2) 特別機械

F.P. 技術教育用機械: 材料 約 30,000 円

AVA 機械 " 10,000 "

写真自動処理装置 " 10,000 "

3.4.2 専任者派遣 (派遣中及び派遣準備中の専任者合計)

(1) 長期

4-64-5-1 1名

ビエラ70074製作班班長 1名

機械修繕・修理班班長 1名

2-71名-5 1名

(2) 短期

3.1.1 (2) はじめに 5~6名

3.4.3 カウンタ-パート受入れ

3.1.3 に示した各部門別に計6名

(大隈館からの56年度カウンタ-パート研修員の定数照会には既に9A9B157(回答済み)

3.4.4 調査団派遣計画

現行R/Dのマスタープラン(2)を取扱述を抽象的7事例、(3)が具体的な何をやるか、1例に何を望むかかがわかる(も明確ではない)。

2007年4月1日に1回は調査団を派遣し、当該年度のImplementation phase Activitiesにつき日・1合同で厳正なエビデンス-ジョンを行い、約束は相互に順守する事を確認し、翌年度の7000以外運営方針につき充分な協議を行って行く事である。

BKKBVからMPCに送付"XAYA Discussion on 00の演説稿から取材に来る事"と"配布用カウンタ-を△△枚準備する"この類の指示はあっても1回のF.P.を推進するに如何なるタイプを制作する事についてinformationあるの advice はない。

上記基本(4)題につき本頁に記した秘密話合を積産ねらから頭脳集団であるBKKBVと技術集団であるMPCを有機的に整合させる能力が必要と考えられる。

4. 昭和55年度実績に於ける評価

4.1 自己評価

BKKBNの事務処理遅く、電話事情悪く(業務報告者
の欠/松等参照) 財源不足があるにもかかわらず、
状況の下で、安心、結核に表わった不平を言わず(本誌
以外の伝率、^Pのpは15%以上あるか) MPCスタッフの努力
を評価している。

ビデオ shooting、写真撮影、印刷の各分野の今年
1年で1割以上向上した。

このことから独創性、企画性、企画力に与えられ
て見つけられるか、あるいはこれらに於ける認識、価値
観、その評価基準が相違点の多くを占める。

いかにせよ、共通一次試験のふまにに於けられた
学業に於て相手に与えるに於ては報告者自身の彼らの国民性
に於ける理解、そのために極力その指導力の不足
を反省せざるを得ない。

4.2 BKKBNの評価

BKKBNは "Extension" 要請者の中へ

(1) The project has been very effective, especially on the production of prototype of information materials : video cassette, slides, posters and simple printed materials.

(2) The project has increased the skill of IEC staff in the National Family Planning Coordinating Board and the Family Planning Implementing Units.

(3) The project has improved the cooperation between the BKKBN and the implementing units, especially the Ministry of Information.

(4) The project has encouraged the development of technological communication instrument for population and family planning staffs.

と目録自費している。

4.3 第三卷の評価

(1) MPC 来訪者、展示参観者の評価

2.2.3 に掲げた外国人来訪者 (インドネシア人来訪者および日本人来訪者 (本2002以外) (注) (注者を除く))、および DKI JK 省 Governor Mr. Cakrapanolo (新聞連絡本80-10号参照) はこの展示を参観し一般市民にこれを MPC の作品、特にビデオ、ビデオ管理している。

(2) 本2002エフの効果

BKKD/DKI JK 省印がまとめた資料によると、1978/1979年を境として、4の小児死亡率の中央値が年々減少して2人に推移している。また家族計画の普及率も1978/1979年を境として、"D" から "C" に転化し、子供数が減少している。(新聞連絡本80-11号本は "JICA 家族計画2002エフの概要" 参照)

(3) 一青年の感想

「若い人達の多くはインドネシアの教える2002エフの中で「家族計画」は汚職の「お金の」2002エフと好意をもっている」

(4) 世銀女性スタッフの評価

東部ジャワ・バリ (家族計画の最も普及している地域) を視察した評価結果として "Indon. Family Planning Program Most Successful in the World" の見出しで新聞記事が書かれた。(The Indonesia Times Sept. 30 1980), (新聞報告書9月号/本6号参照)

5. 事業団本部に於ける意見、要望等

(1) 供与機械に於てはJICAから供与されたものは一月で済む
デジタルの資料はスキャナ/ソフトを内地橋梁前に贈付
された。

(2) 3.2.2の(1)と(2)で可能とする種類の予算を確保する。

(3) 近隣諸国への調査、開会のための名簿を制度に
する。ある程度、ASEAN諸国向けにインドネ
シア国内に課税の取扱いはする。

(4) 視聴覚教育技術は家計計画のためには各プロジェクト
内では必要とされる技術であるので、各プロジェクト共通の
教育、訓練、修繕、保守、修理のセンターを国内への設置を
考慮する。

(5) (4)と同じ主旨から事業団本部に派遣専門家は視聴
視聴覚教育技術のトレーニングセンターを設置し派遣
前に研修を完了させることを考慮する。

(6) 報告書の不勉強も各プロジェクトに於てはインドネ
シア見守りプロジェクトに於てASEANを以て見守り、
アジア中での本プロジェクトの位置づけ不明。

各途上国の現状、各国各機関の援助の方法、内容
結果、各専門家の活動状況、各プロジェクトの進行状況
等の情報を各海外事務所へ専門の担当者で設置し
て収集し、事業団本部にデータを蓄積、分析し、各海外
事務所へ専門家が利用できるデータベースの設置を
検討されるよう提案する。

おすい

山本二部(前)中沢幸一(現)医療協力部長を呼びあげて下さる
専務(田)本部各位の二指導、視察のため来られた長谷川
韓園理事の激励をうけたこと、才二章に報告に通りMPC700以外
の Implementation room に MPC の Activities 等について
昭和55年度の指導助言(3月31日山田興門家、4月以降田中)
を行ない、本700以外を推進させた。

この過程において Project Manager Dr. Haryono Suyono
おのり MPC Director Mr. Tam Trawan とはある時は互に相
変りの議論、またある時は業務とててもはやかた設案
のふと時をもちあから言へる言ひ、聞くにまはす。

BKKBW/DKI/JKT 所長 Dr. Abdulla Cholil、同センター
センター長 Dr. Gayatri と協力した。

MPC スタッフとけとては TV カタログを製作し、結果について
意見を交換し、暗室と一緒に作業をしながら各物の作り
の念をいかに総論に。

才二章に示した MPC の作品は、所長おのりの好評に
おのりから、報告者自身に二おのりに満足しておのりから、
来年度おのりに微力を盡す所存にある。

これら二つ、願わくは、才二章に提案した昭和56年度専務
計画におのりに才二章に掲げた要望等に、園の専務(田)
本部の二理解ある二配慮を賜わらるることを切望する。

おわり

本年3月11日同席等に二果てられたこと、おのり奉恩氏、10月
BKKBW/DKI/JKT 同視察田のお世話に二おのりに二共同為精代
を呼びあげて下さる日本家族計画協会各位。

MPC 700 以外のおのりに二二二全面的に二指導を
うけておのりに二来年度同席大給段を呼びあげて下さる

同大学教育工学部祭也等-(CRADLE)各位。

技術的顧問として助言をいただいた合田周平
電通大教授、森岡昭同助教授、秋山登同助手。

国内からのご協力により、豊富な情報を提供
いただいた半田石雄三前専門家、山田夏久前専門家。

中村健一氏 (Sony (株))、藤崎恒世氏 (同)、木村作博氏 (同)。

当時は、またご協力いただいた Dr. Fred W. Reed 氏、
UNFPA 各位、Mr. Morris K. Blumberg 氏、USAID 各位。

Mr. Soetjipto Wirasardjono 氏 (PKBI (The Indonesian Planned Parenthood Association))
各位。

専断国JKT事務所長宮村也氏、同所長小島明氏
日軍大使館手島邦和一等書記官。

二以上の各者の方々(順不同)のご厚意に衷心を
御礼申し上げます。

添附資料 1 (才育参照)

業務報告書目次

才一4年期分

4月分/才1号

第1回はあつた

1. たいせきにち

5月分/才2号

2. MPC及び各部門の役割

2.1 研修会開催

2.2 当局の課題の提示

2.3 MPCの状況と3部門の均衡

2.4 その他

附: Electro-communication for "KKB" 26/30 May 1980

6月分/才3号

3. 事務手続

3.1 事務手続の促進

3.2 貸与機材(一部)引取り

3.3 55年度派遣研修員の掛せん

4. BKKBN 長官との会談にて

才一4年期を終了して

附: 業務日誌

才一4年期分

7月分/才4号

1. 18はじめ

1.1 事務手続の促進

1.2 TUR11 時計 Time Base Correctorの寄贈

附: 業務連絡一覽(才80-1号~才80-9号)

8月分/ボ5号

2. 今期の活動状況

2.1 専門家, MPC及心 BKKBN 等共同の活動: カテゴリ-[1]

2.2 秘義の技術指導: カテゴリ-[2]

2.3 BKKBN 等と積極協力活動: カテゴリ-[3]

2.4 専門家独自の活動: カテゴリ-[4]

2.5 其他の活動: カテゴリ-[5], [6], [7]

附: 主要人物写真, MPC活動状況写真, 作品見本

Proposal on Activities of Media Production Center

22 July 1980

Monitor TVF=1室) 取組提案 (1言語) 24 July 1980

About the Multi Projection System 8 Sept. 1980

Mimilizer 2000 Manual (1言語)

9月分/ボ6号

3. MPCをめぐる諸情勢

3.1 アジアの中で

3.2 インドネシアの中で

3.3 ほかの国々

4. ボ=4年期を終えて

4.1 MPC内部の情勢

4.2 予見されるVTRの稼働, 制作分担, VTRの流出

4.3 来年度以降への提案

附: NEWS (新聞記事コピー)

業務日誌

ボ=4年期分

10月分/ボ7号

1. 18日付

(No. 7-2)

11月分/第8号

2. 今期の活動状況

2.1 奥竹家 MPC 及び BKKBN 等共同の活動: 1977-〔1〕

2.2 秘蔵の技術指導: 1977-〔2〕

2.3 "A Temporary Recommendation on the Implementation of MPC Project in 1981 and 1982" 提呈: 1977-〔3〕

12月分/第9号

3. 情報収集活動の結果: 1977-〔4〕

3.1 1977年12月の調査結果

3.2 1977年12月の調査結果

3.3 International Seminar on the Advances in Contraceptive Technology

3.4 情報有 - BKKBN F.P. 担当有連絡会議

4 1977年終り

1977年12月の調査結果

1977年12月の調査結果

International Seminar Proceeding

情報日報

添付資料2 (才1章参照)

事務連絡一覧表 (4月以降)

才80-1号 同協(医)才5-139号の照会に対する返信
(55.6.11) 1. 機材の引取り促進について

2. カウチ-10-1の研修について

3. 短期専門家の派遣について

才80-2号 機材検収報告
(55.6.27)

才80-3号 同協(医)才4-8号(カウチ)係機材に関する照会)
(55.6.28) に対する返信

才80-4号 A175-4の申請について
(55.7.14)

才80-5号 1. 昭和55年度研修員派遣について

(55.7.17) 2. 研修員指名に付随する側面との交流

3. 専門家の活動範囲について

才80-6号 機材検収報告
(55.7.25)

才80-7号 BKFBNからTVR17 Time Base Corrector 寄贈物件
(55.8.26) 附: 添付資料7(5) 申入文言

才80-8号 短期専門家の複数派遣について
(55.9.29)

才80-9号 昭和55年度供与機材の一部変更について
(55.9.30)

才80-10号 短期専門家に対する Advanced Training について
(55.10.14)

才80-11号 大石厚生政務次官の懇話会について(報告)
(55.10.14) 附: JICA業務計画、7022工外の本要

才80-12号 沖カクタ中K1 Governor公邸における
(55.10.24) 家族計画実行プログラム展示に参り

才80-13号 BKKBN 14回視察団のJOICFP訪問に参り
(55.11.1) 既Mr. Katagiri宛 Dr. Hanyou 書簡字

才80-14号 BKKBN 14回視察団に送る便宜状について
(55.11.10) Pti dra. Sumavai宛 田中書簡字

概給控宛 田中参 TELEX 字

才80-15号 Dr. Muraiの来訪方向について

(55.11.19) 既: 3-MPC (TORI)の重要性と当面の問題点

才80-16号 "A Recommendation on the Implementation
(55.11.25) of MPC project in 1981 and 1982" 提出について

既: 同上 Recommendation

才80-17号 1. MPCプロジェクト(参)後着名法について

(55.12.5) 2. 内地派遣所修員の帰国(報告)

既: 参後着名法

才80-18号 1. 任期延長に参り

(55.12.12) 2. BKKBNの"Extension" 要請について

3. BKKBN 14回視察団の帰国について(報告)

添付資料3 (2.2.1 参照)

ETA取裁・展示活動一覽

月日	取 裁	展 示 (除. Ety-TV)
1/30	KBV3 - 於 Pagar Baru	
2/13-15	中部, 西ジャワ	
"	南, 西スラ	
2/21	KBV3 - 於 RRI 於スラ	
22	KBV3 - 於同上	
3/11	ETA-TV (素人のど自漫)	
3/26	BKKBN DEI JKT 於 ^{PTN} 落成	於同E
29		於 Jelambar
4/8	BKKBN RIT+ 於 JKT Hyatt	於同E
4/16-20	中部スラ	
5/16, 17	BKKBN RIT+ 於 ^{PTN} 落成	於同E
6/7	ジャカルタ EP 8-70-27	
6/7~76		於 ジャカルタ EP
6/21	BKKBN 於 官人 27 Ety - 於 RRI	
6/29	BKKBN 於 10周年記念 於 C. Panas	
7/23	Dr. H. W. JKT 於 病院 視察	
24	同上	
7/26	不妊手術, IUD 挿入	
8/5	KBV3 - 於 RRI 於スラ	
8/12	V. バランの行事	
19	Dr. H. W. スラ 於 病院 視察	
	病院 於 F.P. 於 視察	
20	同上	
25-29	スラ 於 市内 JKT DEI 市政 PR のための 展示会 於 Kebayoran Lama	於同E
9/8	バラン 於 視察 於 視察	
"	同上 於 視察 於 視察	

(No. 附6)

9/12	KB 29 -	
9/24-25	1980年 2ヶ国以外に於ける家計調査 日本経済新聞社主催の調査会 於 市の Radar Minggu	於 同 氏
28-30	民族(国)伝承 F.P. 放送(1) (2) の 集会 於 中印 2ヶ国 4ヶ国 5ヶ国 6ヶ国	於 同 氏
10/5-10	3rd Asian Nutrition Congress 於 JKT 於 12ヶ国 2ヶ国	於 同 氏
12	西印の海岸	
19		於 DKI JKT Governor 公邸
28	KB 29 - 於 RRI 於 2ヶ国 3ヶ国 家計調査・人口(5) 統計に於ける 2ヶ国/1ヶ国(2)の有効利用(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28) (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35) (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42) (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49) (50) (51) (52) (53) (54) (55) (56) (57) (58) (59) (60) (61) (62) (63) (64) (65) (66) (67) (68) (69) (70) (71) (72) (73) (74) (75) (76) (77) (78) (79) (80) (81) (82) (83) (84) (85) (86) (87) (88) (89) (90) (91) (92) (93) (94) (95) (96) (97) (98) (99) (100)	於 同 氏
11/3-4	於 Cibulan (F.P. 部外) 家計調査・地域(周) 答に援助 於 2ヶ国 3ヶ国 4ヶ国 5ヶ国 6ヶ国 7ヶ国 8ヶ国 9ヶ国 10ヶ国 11ヶ国 12ヶ国 13ヶ国 14ヶ国 15ヶ国 16ヶ国 17ヶ国 18ヶ国 19ヶ国 20ヶ国 21ヶ国 22ヶ国 23ヶ国 24ヶ国 25ヶ国 26ヶ国 27ヶ国 28ヶ国 29ヶ国 30ヶ国 31ヶ国 32ヶ国 33ヶ国 34ヶ国 35ヶ国 36ヶ国 37ヶ国 38ヶ国 39ヶ国 40ヶ国 41ヶ国 42ヶ国 43ヶ国 44ヶ国 45ヶ国 46ヶ国 47ヶ国 48ヶ国 49ヶ国 50ヶ国 51ヶ国 52ヶ国 53ヶ国 54ヶ国 55ヶ国 56ヶ国 57ヶ国 58ヶ国 59ヶ国 60ヶ国 61ヶ国 62ヶ国 63ヶ国 64ヶ国 65ヶ国 66ヶ国 67ヶ国 68ヶ国 69ヶ国 70ヶ国 71ヶ国 72ヶ国 73ヶ国 74ヶ国 75ヶ国 76ヶ国 77ヶ国 78ヶ国 79ヶ国 80ヶ国 81ヶ国 82ヶ国 83ヶ国 84ヶ国 85ヶ国 86ヶ国 87ヶ国 88ヶ国 89ヶ国 90ヶ国 91ヶ国 92ヶ国 93ヶ国 94ヶ国 95ヶ国 96ヶ国 97ヶ国 98ヶ国 99ヶ国 100ヶ国	於 同 氏
22	10ヶ国 11ヶ国 12ヶ国 13ヶ国 14ヶ国 15ヶ国 16ヶ国 17ヶ国 18ヶ国 19ヶ国 20ヶ国 21ヶ国 22ヶ国 23ヶ国 24ヶ国 25ヶ国 26ヶ国 27ヶ国 28ヶ国 29ヶ国 30ヶ国 31ヶ国 32ヶ国 33ヶ国 34ヶ国 35ヶ国 36ヶ国 37ヶ国 38ヶ国 39ヶ国 40ヶ国 41ヶ国 42ヶ国 43ヶ国 44ヶ国 45ヶ国 46ヶ国 47ヶ国 48ヶ国 49ヶ国 50ヶ国 51ヶ国 52ヶ国 53ヶ国 54ヶ国 55ヶ国 56ヶ国 57ヶ国 58ヶ国 59ヶ国 60ヶ国 61ヶ国 62ヶ国 63ヶ国 64ヶ国 65ヶ国 66ヶ国 67ヶ国 68ヶ国 69ヶ国 70ヶ国 71ヶ国 72ヶ国 73ヶ国 74ヶ国 75ヶ国 76ヶ国 77ヶ国 78ヶ国 79ヶ国 80ヶ国 81ヶ国 82ヶ国 83ヶ国 84ヶ国 85ヶ国 86ヶ国 87ヶ国 88ヶ国 89ヶ国 90ヶ国 91ヶ国 92ヶ国 93ヶ国 94ヶ国 95ヶ国 96ヶ国 97ヶ国 98ヶ国 99ヶ国 100ヶ国	於 同 氏
28	KB 29 - 於 RRI 於 2ヶ国 3ヶ国 7ヶ国 10ヶ国 15ヶ国 20ヶ国 25ヶ国 30ヶ国 35ヶ国 40ヶ国 45ヶ国 50ヶ国 55ヶ国 60ヶ国 65ヶ国 70ヶ国 75ヶ国 80ヶ国 85ヶ国 90ヶ国 95ヶ国 100ヶ国	
12/4-9	(BKKBN/DKI JKT 10ヶ国 20ヶ国 25ヶ国 30ヶ国 35ヶ国 40ヶ国 45ヶ国 50ヶ国 55ヶ国 60ヶ国 65ヶ国 70ヶ国 75ヶ国 80ヶ国 85ヶ国 90ヶ国 95ヶ国 100ヶ国)	
13	KB 29 - 於 RRI 於 2ヶ国 3ヶ国 International Seminar on the Advances in Contraceptive Technology 於 2ヶ国 3ヶ国 4ヶ国 5ヶ国 6ヶ国 7ヶ国 8ヶ国 9ヶ国 10ヶ国 11ヶ国 12ヶ国 13ヶ国 14ヶ国 15ヶ国 16ヶ国 17ヶ国 18ヶ国 19ヶ国 20ヶ国 21ヶ国 22ヶ国 23ヶ国 24ヶ国 25ヶ国 26ヶ国 27ヶ国 28ヶ国 29ヶ国 30ヶ国 31ヶ国 32ヶ国 33ヶ国 34ヶ国 35ヶ国 36ヶ国 37ヶ国 38ヶ国 39ヶ国 40ヶ国 41ヶ国 42ヶ国 43ヶ国 44ヶ国 45ヶ国 46ヶ国 47ヶ国 48ヶ国 49ヶ国 50ヶ国 51ヶ国 52ヶ国 53ヶ国 54ヶ国 55ヶ国 56ヶ国 57ヶ国 58ヶ国 59ヶ国 60ヶ国 61ヶ国 62ヶ国 63ヶ国 64ヶ国 65ヶ国 66ヶ国 67ヶ国 68ヶ国 69ヶ国 70ヶ国 71ヶ国 72ヶ国 73ヶ国 74ヶ国 75ヶ国 76ヶ国 77ヶ国 78ヶ国 79ヶ国 80ヶ国 81ヶ国 82ヶ国 83ヶ国 84ヶ国 85ヶ国 86ヶ国 87ヶ国 88ヶ国 89ヶ国 90ヶ国 91ヶ国 92ヶ国 93ヶ国 94ヶ国 95ヶ国 96ヶ国 97ヶ国 98ヶ国 99ヶ国 100ヶ国	
18	於 2ヶ国 3ヶ国 4ヶ国 5ヶ国 6ヶ国 7ヶ国 8ヶ国 9ヶ国 10ヶ国 11ヶ国 12ヶ国 13ヶ国 14ヶ国 15ヶ国 16ヶ国 17ヶ国 18ヶ国 19ヶ国 20ヶ国 21ヶ国 22ヶ国 23ヶ国 24ヶ国 25ヶ国 26ヶ国 27ヶ国 28ヶ国 29ヶ国 30ヶ国 31ヶ国 32ヶ国 33ヶ国 34ヶ国 35ヶ国 36ヶ国 37ヶ国 38ヶ国 39ヶ国 40ヶ国 41ヶ国 42ヶ国 43ヶ国 44ヶ国 45ヶ国 46ヶ国 47ヶ国 48ヶ国 49ヶ国 50ヶ国 51ヶ国 52ヶ国 53ヶ国 54ヶ国 55ヶ国 56ヶ国 57ヶ国 58ヶ国 59ヶ国 60ヶ国 61ヶ国 62ヶ国 63ヶ国 64ヶ国 65ヶ国 66ヶ国 67ヶ国 68ヶ国 69ヶ国 70ヶ国 71ヶ国 72ヶ国 73ヶ国 74ヶ国 75ヶ国 76ヶ国 77ヶ国 78ヶ国 79ヶ国 80ヶ国 81ヶ国 82ヶ国 83ヶ国 84ヶ国 85ヶ国 86ヶ国 87ヶ国 88ヶ国 89ヶ国 90ヶ国 91ヶ国 92ヶ国 93ヶ国 94ヶ国 95ヶ国 96ヶ国 97ヶ国 98ヶ国 99ヶ国 100ヶ国	
19	同上 於 2ヶ国 3ヶ国 4ヶ国 5ヶ国 6ヶ国 7ヶ国 8ヶ国 9ヶ国 10ヶ国 11ヶ国 12ヶ国 13ヶ国 14ヶ国 15ヶ国 16ヶ国 17ヶ国 18ヶ国 19ヶ国 20ヶ国 21ヶ国 22ヶ国 23ヶ国 24ヶ国 25ヶ国 26ヶ国 27ヶ国 28ヶ国 29ヶ国 30ヶ国 31ヶ国 32ヶ国 33ヶ国 34ヶ国 35ヶ国 36ヶ国 37ヶ国 38ヶ国 39ヶ国 40ヶ国 41ヶ国 42ヶ国 43ヶ国 44ヶ国 45ヶ国 46ヶ国 47ヶ国 48ヶ国 49ヶ国 50ヶ国 51ヶ国 52ヶ国 53ヶ国 54ヶ国 55ヶ国 56ヶ国 57ヶ国 58ヶ国 59ヶ国 60ヶ国 61ヶ国 62ヶ国 63ヶ国 64ヶ国 65ヶ国 66ヶ国 67ヶ国 68ヶ国 69ヶ国 70ヶ国 71ヶ国 72ヶ国 73ヶ国 74ヶ国 75ヶ国 76ヶ国 77ヶ国 78ヶ国 79ヶ国 80ヶ国 81ヶ国 82ヶ国 83ヶ国 84ヶ国 85ヶ国 86ヶ国 87ヶ国 88ヶ国 89ヶ国 90ヶ国 91ヶ国 92ヶ国 93ヶ国 94ヶ国 95ヶ国 96ヶ国 97ヶ国 98ヶ国 99ヶ国 100ヶ国	於 同 氏
20	同上 於 2ヶ国 3ヶ国 4ヶ国 5ヶ国 6ヶ国 7ヶ国 8ヶ国 9ヶ国 10ヶ国 11ヶ国 12ヶ国 13ヶ国 14ヶ国 15ヶ国 16ヶ国 17ヶ国 18ヶ国 19ヶ国 20ヶ国 21ヶ国 22ヶ国 23ヶ国 24ヶ国 25ヶ国 26ヶ国 27ヶ国 28ヶ国 29ヶ国 30ヶ国 31ヶ国 32ヶ国 33ヶ国 34ヶ国 35ヶ国 36ヶ国 37ヶ国 38ヶ国 39ヶ国 40ヶ国 41ヶ国 42ヶ国 43ヶ国 44ヶ国 45ヶ国 46ヶ国 47ヶ国 48ヶ国 49ヶ国 50ヶ国 51ヶ国 52ヶ国 53ヶ国 54ヶ国 55ヶ国 56ヶ国 57ヶ国 58ヶ国 59ヶ国 60ヶ国 61ヶ国 62ヶ国 63ヶ国 64ヶ国 65ヶ国 66ヶ国 67ヶ国 68ヶ国 69ヶ国 70ヶ国 71ヶ国 72ヶ国 73ヶ国 74ヶ国 75ヶ国 76ヶ国 77ヶ国 78ヶ国 79ヶ国 80ヶ国 81ヶ国 82ヶ国 83ヶ国 84ヶ国 85ヶ国 86ヶ国 87ヶ国 88ヶ国 89ヶ国 90ヶ国 91ヶ国 92ヶ国 93ヶ国 94ヶ国 95ヶ国 96ヶ国 97ヶ国 98ヶ国 99ヶ国 100ヶ国	於 同 氏
22	情 報 有 - BKKBN F.P. 2ヶ国 3ヶ国 4ヶ国 5ヶ国 6ヶ国 7ヶ国 8ヶ国 9ヶ国 10ヶ国 11ヶ国 12ヶ国 13ヶ国 14ヶ国 15ヶ国 16ヶ国 17ヶ国 18ヶ国 19ヶ国 20ヶ国 21ヶ国 22ヶ国 23ヶ国 24ヶ国 25ヶ国 26ヶ国 27ヶ国 28ヶ国 29ヶ国 30ヶ国 31ヶ国 32ヶ国 33ヶ国 34ヶ国 35ヶ国 36ヶ国 37ヶ国 38ヶ国 39ヶ国 40ヶ国 41ヶ国 42ヶ国 43ヶ国 44ヶ国 45ヶ国 46ヶ国 47ヶ国 48ヶ国 49ヶ国 50ヶ国 51ヶ国 52ヶ国 53ヶ国 54ヶ国 55ヶ国 56ヶ国 57ヶ国 58ヶ国 59ヶ国 60ヶ国 61ヶ国 62ヶ国 63ヶ国 64ヶ国 65ヶ国 66ヶ国 67ヶ国 68ヶ国 69ヶ国 70ヶ国 71ヶ国 72ヶ国 73ヶ国 74ヶ国 75ヶ国 76ヶ国 77ヶ国 78ヶ国 79ヶ国 80ヶ国 81ヶ国 82ヶ国 83ヶ国 84ヶ国 85ヶ国 86ヶ国 87ヶ国 88ヶ国 89ヶ国 90ヶ国 91ヶ国 92ヶ国 93ヶ国 94ヶ国 95ヶ国 96ヶ国 97ヶ国 98ヶ国 99ヶ国 100ヶ国	於 同 氏
23	青少年大臣 西印の Sukabumi で F.P. 実施 於 2ヶ国 3ヶ国 4ヶ国 5ヶ国 6ヶ国 7ヶ国 8ヶ国 9ヶ国 10ヶ国 11ヶ国 12ヶ国 13ヶ国 14ヶ国 15ヶ国 16ヶ国 17ヶ国 18ヶ国 19ヶ国 20ヶ国 21ヶ国 22ヶ国 23ヶ国 24ヶ国 25ヶ国 26ヶ国 27ヶ国 28ヶ国 29ヶ国 30ヶ国 31ヶ国 32ヶ国 33ヶ国 34ヶ国 35ヶ国 36ヶ国 37ヶ国 38ヶ国 39ヶ国 40ヶ国 41ヶ国 42ヶ国 43ヶ国 44ヶ国 45ヶ国 46ヶ国 47ヶ国 48ヶ国 49ヶ国 50ヶ国 51ヶ国 52ヶ国 53ヶ国 54ヶ国 55ヶ国 56ヶ国 57ヶ国 58ヶ国 59ヶ国 60ヶ国 61ヶ国 62ヶ国 63ヶ国 64ヶ国 65ヶ国 66ヶ国 67ヶ国 68ヶ国 69ヶ国 70ヶ国 71ヶ国 72ヶ国 73ヶ国 74ヶ国 75ヶ国 76ヶ国 77ヶ国 78ヶ国 79ヶ国 80ヶ国 81ヶ国 82ヶ国 83ヶ国 84ヶ国 85ヶ国 86ヶ国 87ヶ国 88ヶ国 89ヶ国 90ヶ国 91ヶ国 92ヶ国 93ヶ国 94ヶ国 95ヶ国 96ヶ国 97ヶ国 98ヶ国 99ヶ国 100ヶ国	

Produksi Video Program MPC Tahun 1980

添附資料4 (2,2,1参照)

1. Laporan Untuk Anda: "Kunjungan Deputy Bidang KB ke Surabaya/Banyuwangi.
2. Laporan Untuk Anda: "KB Terpadu".
3. Laporan Untuk Anda: "Kunjungan Deputy Bidang KB pada Lokakarya Peningkatan Effectifitas Penyelenggaraan Siaran KKB melalui Media Radio".
4. Pembuatan Produksi Tempe.
5. Spot ASI, Spot GIZI, Spot Kependudukan dan Spot KB.
6. Laporan Untuk Anda: "Pelaksanaan Program KB di DKI Episode 2.
7. Laporan Untuk Anda: "Pembukaan Kongres Gizi Asia ke III".
8. Indonesia Family Planning Program.
9. A New Family Planning Nutrition Integrated Approach.
10. Reportage Lokakarya Pendaya gunaan Potensi Masyarakat Dalam Menunjang Program Keluarga Berencana.
11. Reportage Panel Diskusi Pemanfaatan Siaran Radio Dalam Menunjang Program Keluarga Berencana.
12. Pemasangan Alat Kontasepsi Dalam Rahim Jenis Lipes Loop-Cooper T, Cooper 7-ML Cu 250 & Cu 375.
13. Laparoskopie Sterelisasi..
14. Laporan Untuk Anda: "Pembukaan Pameran BKKBN-DKI di PRJ.
15. Peranan Majelis Taklim Dalam Motivasi KB (1).
16. " " " " " (2).
17. Reportase Penggarapan Program KB terhadap Golongan Minoritas (China)..
18. Program Hiburan Untuk Keluarga Sejahtera.
19. Masalah-Masalah KB di lapangan.
20. Laporan Pelaksanaan KB-K di DKI-Jakarta.
21. Laporan Untuk Anda: "Seminar Pers dan Pendekatan Baru Program KB/K Cibulan.
22. KB Show Januari 1980.
23. KB Show Februari 1980.
24. KB Show Maret 1980.
25. KB Show Agustus 1980.
26. KB Show September 1980.
27. KB Show November 1980.
28. KB Show Desember 1 Surabaya.
29. KB Show Desember 2 Surakarta.
0. Cabaret Selection Volume 1
1. " " " 2
2. " " " 3
3. " " " 4
4. " " " 5
5. " " " 6
6. " " " 7

附 8

Produksi Video Program MPC Tahun 1980

37. Cabaret Selection Volume 8
38. Qosidah "El Fitri" + Spot KB.
39. Pelaksanaan Program KKB Paripurna di Jawa Timur.
40. Reportase Rapat Persiapan Crash Program Peraman Dharma Wanita Dalam Menunjang Pelaksanaan Program KB Perkotaan & Lokakarya Pers Tingkat Regional menunjang Program KB di Surabaya.
41. Reportase Seminar Internasional Pengembangan Tehnologi Kontrasepsi di Surabaya.
42. Peringatan Dasawarsa I Pelaksanaan Program KKB di Indonesia-Cipanas.

Jakarta, 12 Januari 1980

Media Production Center

Bag. VTR.

Junarto BA.

Jakarta, 14 January 1981,-

添附資料 5 (2.2.1 参照)

INVENTORY LIST OF PHOTOGRAPH SECTION.-

Period ; 1980 year.

Catalogue No.	Description.
1. 013/DF/80	Dr.Haryono S.'s visit to RS Cipto Mangunkusumo on the occasion of PKBRS. (Photography document)
	Dr.Haryono S's visit to RS Mardi Santoso on the occasion of PKBRS. (----- " -----) (Surabaya) 1980 August 19.
	Dr.Haryono S's visit to RS Sutomo, (Surabaya) on the occasion of PKBRS. (Photography document) 1980 August 20
	Dr.Haryono S's visit to Vice Governor of East Java. (Photography document) 1980 August 20
2. 014/DF/80	Family Planning Motivation at Matdi- Santoso Hospital. (Photography document)
	Trainer information of Training Center concerning populationship. (----- " -----)
3. 015/DF/80	Closing ceremony of MPC Training Center & Farewell Party for both Mr.Kimura and Mr.Fujisaki. (----- " -----)
	Technical visit of PNG's Information Minister to RRI Jakarta. (----- " -----)
4. 016/DF/80	Pannel discussion of KKB & Development at PKBI. (----- " -----) 1980 Nov 22.
5. 017/DF/80	Opening ceremony of The Seminar of Technology on the contraception method in Surabaya. (----- " -----) 1980 December 29
	Lokakarya of National Mass Communication concerning Family planning field. at Ramayana Hotel- Surabaya. (----- " -----) (1980 Dec 13 - 17)
	Seminar participant's visit to Probo-linggo region. 1980 Dec 18 (----- " -----)
	Snapshot activity of Family planning acceptors at Trawas, Mojokerto/East Java,. (----- " -----) 1980 Dec 16 - 17)

P/10

Catalogue No.

Description.

5. 017/DF/80	Picture entitle why should be planned.	Slide
	IUD setting	Slide
	Sterilization operation	Slide
	PLKB Activity	Slide
	MPC Training activity	Slide
	Family planning Deputy Chairman's visit to some regions.	Slide.

submitted by : Suwandi B.A.

不附資料 6 (2,2,1 考 02)

DAFTAR PRODUKSI PRINTING

1. Kalender tahun 1981. (Asi dan Khasiatnya).
2. Leaf Lat. P3M KIE KKB.
3. Poster "Dapat Diatur".
4. Poster "IUD Menjamin Kepuasan Anda".
5. Poster "Lebih Mantap Untuk Masa Depan".
6. Poster "Pilih Satu Pasti Cocok".
7. Kop Surat " M P C ".
8. Amplop Surat " M P C ".
9. Kami Siap Melayani Anda (Poster).
10. Poster : "Kapan Saja PPKB Siap Melayani Anda baik pil KB
atau Karet KB Selalu tersedia untuk anda.
11. "Kunci Dari pada Kemajuan Nasional adalah Keluarga yang sehat".
(Flip Chart).
12. Akibat Urbanisasi.
13. " I U D. Memang Aman ".

附/2

添付資料 7 (2.3.1 参照)

Project Manager 宛 報告・提案・申入れ 文書一覧

(1) Towards Promotion of MPC's Activities 17 May 1980
(業務報告書 5A/1 付 2 号に添付)

(2) 事務手続の促進申入れ (英文) 5 June 1980
(業務報告書 6A/1 付 3 号に添付)

(3) A Proposal on Activities of Media Production Center 22 July 1980
(業務報告書 8A/1 付 5 号に添付)

(4) Monitor TV (= 案) 提案 (1 誌) 24 July 1980
— BKKBNDKI JKT 所長宛, 宇 Project Manager —
(業務報告書 8A/1 付 5 号に添付)

(5) 案 議 討 題 1 号 JICA/JAPAN の 協 力 17 号 案 正 放 道
案 除 着 1 号 強 請 申 入 申 入 入 入 (英 文) 9 Aug. 1980
(事務連絡書 80-7 号に添付)

(6) About the Multi Projection System 8 Sept. 1980
— BKKBNDKI JKT 所長宛, 宇 Project Manager —
(業務報告書 8A/1 付 5 号に添付)

(7)

A Temporary Recommendation on the Implementation
of MPC Project in 1981 and 1982 25 Nov. 1980
(事務連絡書 80-16 号に添付)

添付資料 8 (2.3.3 参照)

作成した教材 各種資料(含翻訳)等一覽

(1) Electro-Communications for "KKB" May 1980

- 1. Communications aided by electronics
- 2. UTR software for training
- 3. Towards effective instruction
- 4. "KIE" for "KKB"

全中ワ・ハリ 家族計画、テレビ制作研修会 講義テキスト
(業務報告書 5月分/第2号に添付)

(2) DASAR-DASAR TEKNOLOGI PRODUKSI MEDIA UNTUK KBRK

(1)の1語版 Sept 1980

全国家族計画、視聴覚テレビ制作研修会 講義テキスト

(3) Mimilizer 2000 Manual (1語) Aug. 1980

小笠原 = ライフ-使用の手引き 翻訳
(業務報告書 8月分/第5号に添付)

(4) スライド複写器 T-27U (1語) Sept. 1980

T-27UのT-27U 翻訳

(5) Basic Technology for Media Production Sept. 1980

(6) Advanced Technique for Video (藤崎, 木村著) Sept 1980

(5),(6) -c Advanced Training for Video Technique
講義テキスト

(業務連絡 第80-10号に添付)

年次報告書(昭和55年)

国際協力事業団総裁
有田 壺輔 殿

昭和56年1月5日

任 用 インドネシア
プロジェクト 中央生物医学研究所
任 務 プロジェクト総括
氏 名 金光 正次

R/Dにすれば、中央生物医学研究所(CIBR)に対するJICAのプロジェクトは昭和55年3月に協力期間が終わることになっていたが、同年2月末所した評価調査団(団長 村田良介 予研所所長)の裁定により、本プロジェクトは昭和55年4月から2年間延長(follow-up)されることになった。同調査団とCIBRはこの延長期間に研究課題を決定し、その研究を通じてCIBRスタッフの専門知識と技術の向上と討ること意見が一致し、次の研究課題を採り上げることになった(合意メモランダムを別添)

I. OTA-11 プログラム

1. インドネシア産実験動物によるDPTワクチン検査の基礎的研究

a. CIBRが生産する実験動物を用いた国内標準ジフテリア及び破傷風トキソイドの力価決定

b. ジフテリア及び破傷風トキソイド製造技術の指導

c. LPE, HSF, 及び内毒素の測定によるDPTワクチンの毒性の研究

d. 実験動物繁殖方法のより高度の改善

e. 被接種者の血清抗体測定によるDPTワクチンの効果判定

3. インドネシアにおける百日咳の疫学的研究

II. OTA-17 プログラム

1. 腸内ウイルスの研究

a. Aと型ポリオの検査室診断

b. ポリオワクチン接種効果の分析

c. ポリオ以外の腸内ウイルスによる疾病の検査室診断

2. 呼吸器ウイルスの研究

a. CBRのウイルス部とWHOの地域インフルエンザセンターに示される能力の向上をはかること

b. インフルエンザ以外の呼吸器ウイルス病の検査室診断

3. アルボウイルスの研究

a. アルボウイルス感染の疫学的研究

b. アルボウイルスに起因する脳炎の診断

4. ウイルス性下痢症の研究

5. 上記以外のウイルス病の診断

上述の研究課題の中、昭和55年度に実施したものを事業実績として次項に掲げた。

(1). 昭和55年度事業実績

当初計画(目標)	実施成績
<p><u>OTA-11</u></p> <p>1. 国内標準ジフテリヤ及び破傷風トキソイドのカビ決定</p> <p>2. インドネシアにおけるジフテリヤ感染の現状調査</p> <p>3. VERO細胞によるジフテリヤ毒素カビの測定</p> <p>4. 実験動物生産の向上</p>	<p>CBRの実験動物部で生産するマウスを用い、ジフテリヤ及び破傷風トキソイドの抗体価と免疫力を測定すると共に、その国内標準カビを決定した。</p> <p>ジャカルタ市の幼児を対象にジフテリヤに対する血清抗体を測定し、20-30%の陽性率を得た。</p> <p>ウイルス部から提供されたVERO細胞の単層培養を用い、ジフテリヤ毒素のカビ測定を行った。</p> <p>計画生産方式を採用して、マウス及びビニルモットの月産数をそれぞれ1,000、30隻を増加し、DPTワクチン検定用に供給した。これに加え、ウイルス部の要請に応じ、乳豚もマウス1,000を月産している。</p>
<p><u>OTA-17</u></p> <p>1. 腸内ウイルス感染の現状調査</p> <p>a. 世和リオウイルスワクチン接種対象の健康年齢の決定</p>	<p>西部ジャワの農村ポルワカルヤの乳幼児380名についてポリオ中和抗体を測定し、triple倍率率が2歳以下で14.3%、1歳以下では</p>

1. 乳児以外ノ腸内ウイルスノ蔓延度ノ調査

30%に感染ニシト明クナルニ在リ。

上記ノ乳幼児ノ定期的ニ採集シテ404件ノ原便中66検体ニウイルスニ証明シテ。之中15株ガCB5。2株ガE7。1株ガE21。3株ガE37。之ヲモP1。P3モ分離シテ。

2. ウイルス性下痢症。特にロタウイルスノ調査

シヤカルヲ及ビナガンノ病院ガ乳幼児下痢患者ノ原便ヲ集メ。ELISA法ニロタウイルスヲ検索シ。シヤカルヲ29% (100/345)。ナガンヲ40.6% (28/69)ノ陽性率ヲ得タ。

3. インドネシアノ長江ノエボラウイルスノ地理的分布ノ調査

此ノ調査を通じてウイルス部スタッフニ。折リハ研究ノ発想法。科学的物見方ヲ考ヘテ。研究計画ヲ立て方ヲ深クモヒテ指導シ。加ヘテ乳畜ニウイルスを用イテ血清抗体ノ測定技術ヲ教入シ。

4. ウイルス検査。研究ニ不可欠ノ基礎的技料ノ自給

ニシテ

a. 培地用牛血清ノ自給

左記ノ技料ハニシテJICAガウノ供与ニ頼ラレタガ。ホコール農大ガウガ採種ノ供給ニ従フ。ニシテノ方同様に遠心。た後汁過滅菌ガニシテハ良好ヲ得テ作ラニシガ出来タ。将来年間必要量ガ自給ヲ計画シテ。

b. サル腎細胞ノ自給

ニシテバンドンノBio Farmaガウガ供給ガレタサル腎細胞ハ。本年9月ガウガ供給ガ中止ガレタ。ニシテCBMガウガ自給ヲ計画シ。技術ヲ指導シ。在結果。不同ノ試作ニ成功シタ。

次に昭和55年度の事業に計画したが、実施に至らなかった事項について記す。

当初計画(目標)	実施されなかった理由
<p><u>OTA-11</u></p> <p>1. 被接種者の血清抗体測定によるDPT 774件の効果判定</p>	<p>本年、国産DPT774件の野外接種実験が行われ、その際上記の実験とCBIRが受持ったことにはなっていたが、CDC(保健省伝染病予防総局)が被接種者血清の検査を渋ったため、この計画は不可能になった。しかしその後、折衝により、明年度に血清が検査される見通しがあった。</p>
<p><u>OTA-17</u></p> <p>1. CBIRとWHOの地域インフルエンザセン ターを1つためるため、本ウイルスの検査能力 を強化すること。</p>	<p>上記の計画を達成するため、インフルエンザウイルスの分離とこの抗体合併を実施しようとしたが、流行の情報をついぶ窓口はCDCであり、この指示に従って採取された検体がCBIRに送られ、検査をしてくれる組にないため、すべてがCDCまで、遠隔地から送付された検体は輸送方法が不適で検査に堪へぬものが多い。しかしCBIRはこれを慢然と検査しているだけで、これではウイルスの分離成績を向上させることは期待出来ない。CBIR所長はこのシステムの改善を提案したが、この作務が改善されぬ限り、本件案は終了の進捗はない。</p>
<p>2. 輸血用血液中のB型肝炎抗原の 検査</p>	<p>本件においてCBIRから試薬の入予と、検査技術の指導を要請され、JICAより試薬2000件分の後助として、技術指導を終ったが、その後行政レベルの話し合いがなされている模様で、この検査は日本に軌道にのりつつある。</p>

(2) 昭和三十五年事業計画 (この項以下は明年度の指導と相当する山田邦夫専門家が記述した。)

事業内容	研修等の実施計画	カウンタ-パートの訓練計画	その他
<p>1. ポリオウイルスの検出状況と、エラロウイルスの検出状況の調査研究</p> <p>a. 検出対象 500名 b. 検出対象 500名</p>	<p>内容的には昭和三十五年のものと同様のものがある。</p>	<p>現在身につけていっているものを正確に確認する研修として定着させる。</p> <p>お金の使い方についての分析と、その中情報整理についての能力を高める。</p>	<p>対象地域をスラロ島、ハロロ島、マラマラ島の住民として。</p>
<p>2. 乳幼児下痢症の研究</p> <p>→ (ELISA)法によるロタ-ウイルスの検査</p>	<p>内容的には昭和三十五年のものと同様のものがある。</p>	<p>全上。</p>	<p>信田県管内、寄居町管内との共同研究として発展させる。</p> <p>2. 研修の資料等が相互に共有し、相互に活用し、JICAの協力を受ける。</p>
<p>3. 検出ウイルス診断の迅速化と、ウイルス検出のサーベイランスの充実。</p> <p>1. 昭和三十五年の検出のありかとして、年毎に回って、迅速な検査結果の発表と対象として、ワクチン接種</p>	<p>1. 組織研修を、用いたエラロウイルスの検査法は、既に取得している。</p> <p>新しい研修を行う。</p> <p>a. 検出ウイルスに迅速な検査</p>	<p>1. カウンタ-パートの研修とJICAの協力している。</p>	<p>1. 研修、教材等に力をつけている。</p> <p>2. 検出状況との関係、検出率について、迅速な発表と共有している。</p>

<p>採取し、ウイロ 分離を行なう 同解法を行なう。</p>	<p>a. フ化イオンによる 分離法</p>	<p>2. 分離の原理は ウイルス以外に。</p>	<p>したがって従来の 小量分離法より 精度の向上が 期待される。</p>
<p>2. 併せてその分離 法に関するサーベイ ラント資料をまとめる。</p>	<p>c. 赤血球吸着法 による分離法</p>	<p>a. イソプロピルアルコール b. パラホルムアルデヒド c. 赤血球 d. 4-プロピル e. エタノール f. アセトン g. ヘキサメチル</p>	<p>分離の向上を 期待する。人 達も多い。</p>
<p>3. これらの分離法を 行政上必要な 之であることを 行政、診断 に必要とする と定めること を要する。</p>	<p>d. 干渉法による分離 法</p>	<p>等価性上必要 なウイルスの分離、 同定法について 行なう。</p>	<p>しかし、CBR側 ではこの分離 と検出者の呈 示の向上が 必要である。</p>

以上3項目の調査計画を決定し、CBR側との了解も
得られ、予算申請書として提出。

これらについて、関係者に連絡し、他の研究機関
からも呈出された調査計画を分けて、査定を要して
いる段階である。

そのうち4者率によれば、3項目全部了解
されることは極めて困難なようである。

万一の場合は、1項目程度は、日本側専門家の
もつた研究費等によるサポートも必要かと
考えている。

- (3) 昨年の外貨を定資産に対する自己評価。
 及び本日の口座残高の自己評価を述べた。747.

1. 自己評価： 持分資産については予定の60%程度を達している
 と思う。すなわち12セクターのうちの5個に対して
 60%は普通の水準をなすかと考へてゐる。
 但し、持分の理論的解説、言葉義に至つて
 は言語能力が低く、10分の1程度しか達せ
 なかつたと考へる所がある。

2. 相手国側の自己評価： 彼らの一般的姿勢として、或る程度
 の持分が身につけば、自分で持分を考へ
 てもつてゐるので、自己評価と云ふ点については
 のは困難である。
 但し、理論的持分者は大分にかゝらぬが
 本日はおおよそなつてゐると思つて、普通の意味
 の自己評価はうけてゐると考へらる。

(4) 有 略

(5) その他各等団本部に対する意見要望

特になし。

年次報告書

(55年 月分)

56年 1月 15日

国際協力事業団
総裁殿

第 号

氏名	高井 鏡二
指導科目	千-ム-リ-7" 兼、結核対策
現住所	Jln. Tembakan Deli 3C, Medan,
通信連絡先	C/O Consulate General of Japan, Indonesia. Jln. Suryo No. 12, Medan Indonesia.
勤務機関名および住所	Dinas Kesehatan Dati I, Propinsi Sumatera Utara, Jln. Prot. H.H. Yamin S.H. 41 AA Medan, Indonesia.

1980年度年次報告を次の項目の通り
提出致します。

記

- (1) 昭和55年度事業実績について
- (2) 昭和56年度事業計画について
- (3) 昭和55年度実績に対する評価
- (4) 一般無償資金協力について
- (5) 事業団本部に対する意見要望等

(1) 昭和55年度事業実績

専門家の派遣 調査団の受入等

氏名	業務内容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
柳橋次郎	チームリーダー	58.7.11~						7/10					
高井健二	チームリーダー 臨検対象					55/52						~58.3.31	
橋浦宏志	業務調整	58.5.23~										~58.5.22	
熊沢教真	臨検系臨検対象 (検査)	57.11.17~										1/16	
田中和夫	マラリア対策 (22年度迄)	58.1.19~										~58.1.17	
神楽広二	マラリア対策 (23年度迄)	58.1.21										~58.3.28	
池本孝哉	マラリア対策 (23年度迄)	58.1.21										~58.1.31	
山崎英気	旅行代理 (24年度)												
辻本敏文	"												

長谷川理幸 巡回指導視察団 8月27日 - 29日

牛島博之氏 Indrapura Local Labo 全用整調査団 9月18日 - 9月27日

坂下昭雄氏

橋本^明健二氏

脇坂一男氏 指導査問査団 11月4日 - 11月7日

栗野正之氏

藤岡千秋氏

田辺新治氏

チームリーダーの交替 任期满了に伴い熊沢専門家の帰国はスムーズに

実施された。また上記3件の調査視察団は、いずれも短期間の滞在であった。

適切な指導査問整調がなされた。

(No. 又)

昭和55年度の当初目標計画

1. 伝染病対策の促進

マラリア対策、結核対策、伝染施設設備対策
予防接種計画、再生虫対策

2. 医療給付の促進

アサン県衛生部、キラン公立病院、70000外地内7
3保健所の設備改善と技術指導の促進
従事者の日本での研修

3. 衛生検査業務の促進

ガン発生試験所(国産)の設備改善資材供与の促進
専門家による性能の促進
インフラの地域発生試験所の建設

4. 衛生教育活動の促進

村巻の供与

5. その他合意をみる項目

水供給施設の供与

以上が日本国国内で合意をみる項目、今年度の当初目標計画である。

Malaria 対策:

Main Vector の確定と 特別研究地区の指定 (終了)

Malaria metric Survey (柳本), ^(Adult, Larvae) Fauna population Survey (田中)

Man bite / Room collection (池本) により Main Vector が *Ano. Sundanicus* と決定され、海岸に近い村の海岸に近い部落に Endemic disease として Malaria が発生していることが明らかとなった。この条件に好適な Desa Perupuk を特別研究地区に指定した。

Perupuk 村 Lorong I, II における基礎観察, (継続)

1982年6月から1年間の予定で Malaria metric Survey, Man bite hour collection が開始され毎月2回実施されており、Control 開始後の同様な観察と比較対照し Control measure の適正化がはかられた。Malaria metric Survey による parasite rate は 8.9%。Man bite hour collection による Vector population は観測の終了頃 5,6月 に最高となり、この時が Control 実施に好適であることが示された。(池本 = 屋内・屋外, 田中 = Trap House)。

感染可能期間の推定とその季節的長さ

5月より11月におおむね Perupuk Lorong II で捕獲された 1,143 匹の雌 *Ano. Sundanicus* の解剖検査より感染可能期間が推定され、7月に最長で 94.7% に達したことが示され、6,7月が Control の適期であることが推定された (池本)。

その他の意見

直接 Control measure に適しているから... といふ意見は今後のことと思われ多数の意見が示されている。そのうち、Larvae 生息の適当な環境 (池本)、雨期には降雨と ~~関係~~ *Ano. Sundanicus* population の非同期性についての考察 (池本) は興味のあるところ。

付: 他に 2,3 の実験室内研究が予定され「われら重要目標の達成」側の都合で
結核対策 (今年より新規開始) ^{実験をみよるにいいからなかつた}
(counterpart 国政府 Dr. H. Naingalon (Eti 提議中))

National TB program の北スラバ州、アサヒン県 の普及状況

National TB program は Direct smear Test によって患者を発見し、1年間の SM, INH による治療を行うのを旨とし、その無料給付が保障されている。その機能は保健所が中心的に果たしている。北スラバ州では普及浸透がすすんでおり、

(No. 4)

州内 179 保健所のうち 80 保健所が機能を停止したが、Asahama 県では
15 保健所中 7 保健所が TB programme に参加した (1980 年 8 月現在)。従って
州紀生部はまた 110 以上の保健所を TB programme に参加させる計画を知は
ない。

Project area 内の保健所は 1978 年から TB programme を実施した。しかし
これらの保健所も 患者発見数は減少した。登録・治療の上で幾多の問題を
もたらした。検査室は感染の安全の考慮から閉鎖されているところがある
た。これを考慮し、保健所の器材備え不足 (BPU (登録・治療) の TB programme
への参加を報告され、実施の段階となった (告知)。また検査室の必要最少限度の
改善を報告され (告知) 財源の検討されている。

一方 TB programme に参加する key person の教育訓練が不十分であるので
Project Area 3 郡 (Asahama 県下の TB programme に参加している保健所
のうちの semina の開催 (計画中)、^{保健所} 法政理学者・BPU 看護婦への
患者発見・治療の運営上の訓練 (即日実施予定)、BPU 看護婦・検査従事者
への採集・塗抹・固定 (X線透過)・染色・鏡検及び Recording などの
技術訓練 (実施中) がはかられている。

これらの連年の staff の訓練、施設整備は 1980/1981 FY 中に終了の予定。

Project area 内の保健所の TB programme の州内での Model
保健所と見なすときは 他の方針の対策を TB 対策に Integrate するつもり。

衛生施設・設備対策 : 未実施

予防接種計画 : "

寄生虫対策 :

指定された 6 村の寄生虫検査 (毎年 1 回の継続)

1. 786 検体、1 検査され、Ascaris 72.3%, Trichuris 88.1%

Hookworms 60.4% のうち Hymenolepis nana, Enterobius vermicularis
Entamoeba histolytica (2.96%), Giardia lamblia が発見された。

これらの寄生虫は保健所を通じて治療が行われた。総合検出率は 99% である。

Ascaris 検出率は多くの村で 50% に達する程度に過ぎない。

抗薬駆虫では問題を解決が困難であろう。

Hookworm は重要寄生虫であるが、*Anchylostoma duodenale* と *Necator Americanus* は 1:2 の割合が多い。今後の検査が必要。Hookworm は水田等と畑その他の地帯には差が大きい。前者は約 80%、後者は 30-40% の寄生率である。地帯検査を実施し対策に反映させる。

当初目標に上らない伝染病対策

腸管系細菌感染の調査 (総括)

Project Area 内 6 村の一般住民 3,729 名の Rectal Sewab の採取された検査の結果 *Shigella* 17 株、*Salmonella* sp. 1 株、*V. parahaemolyticus* 5 株が分離同定された。*V. cholera* はこの検査では発見されなかった。

Shigella は川水または汲み上げの水の使用量に多少に差はあれ、深井戸ではすくなく Sei Buah Keras 村ではその差が有意であった。給水施設の改善が求められた。

Shigella, *Salmonella* に対する CM, TC に薬剤耐性があり、流注した使用薬剤の選択が検討された。

エラ大流行の疫学的分析 (総括)

罹患患者数の圏別・地域別資料と 20 箇検査所中長から得られた結果から 14,000 名以上に及ぶ 1978/1979 のエラの大流行の疫学的分析を行った。

この大流行は NIAS 島に 1978 年 3 月に始まり大流行を 11 州内各所に波及して 1979 年 6 月に Endemic に陥りその後流行はかき止まった。

大流行の波及は NIAS 島北東に Medan に至り、再び引かえして一方は NIAS 島の南東に流行し、他一方は Tapanuli Selatan, Labuhan Batu に至り、最近までその余はかき止まった。

Medan での大流行は上水道の汚染の可能性を明らかにし、緊急対策がとられた。

Medan の大流行ははじめに 箱葉型にみられ、その後の流行は小川型に混在して遷移されたことが推定された。NIAS の 2 回目の大流行は箱葉型にみられていた。

大流行に際しては、エラ Focus の監視、給水施設の設置、改善が勧められた。

アサヒ生命、紀生研、キタラン公立病院、79 年エラ地域内の保健センターの設備改善と技術指導ならびに今後 3 年の日本での研究計画

(No. 6)

上記諸村に施設は、これに多数の村器の供与がなされ、逐次
改善が行われ、各専門家は関連部門に於ける技術指導を
行っている。また、今後には、日本の研修のため、次の2名が配られている。

マタン公立病院長 Dr. D. Harahap (Form 提出中)

マタン母、衛生部(技研) Dr. Sulaiman Lubis (研修43.帰任)

マタン衛生試験所の設備改善、資材供与ならびに、専門家による村能の促進

本年度に引きついで、資材供与が行われ、従って専門家

の在任中は腸管系病系存在の分離調査、寄生虫の検査、培養

の技術、多岐に行われ、その村能、精進の向上が著しいといわれて
いる。

細菌科技術担当者 Mr. Komau (結研、1-31 在外300)

インドラワラ地域、衛生検査所の建設

非常な于金曲折を経てようやく近日着工の目途が立った。

その大きな原因はインドネシア国内法の改正とその認可である。

教育活動の促進

教育活動の促進のため、多数の器材の供与された。また、今後とも

予定されている。Perupuk, Gunung 及び Malaria 管内

各村中心となつて、映画会、集会がこれ、数百名の予備がなされた。

合意による水供給施設の供与

70プロジェクト地域内5ヶ所に深井/浅井が供与設置

される。現在進行中。地域の選択は2ヶ所、水利の疫学的

見地、州・県知事との政治配慮、財政的必要性、インドラワラ

衛生試験所の建設の都合等によつて決定された。

入札による業者指名等はスラースに行なわれた。

その他

次の2件の学術集会もつた。1つは、盛会で技術移転相互理解上有用であつた。

Scientific meeting on Gastro-Enteritis (29 October, 1950)

Reports on the Activities of Malaria Survey (8 January, 1951)

(No. 7)

(2) 昭和56年度卒業生計画

1. 卒業内容

伝染病対策

マリヤ対策

結核対策

腸管系寄生虫の細菌・寄生虫の疫学研究

社会衛生と学校保健

技術整備計画 (Aca-Lan 地域以下に調査)

1. カウターパート訓練計画

夫の専門家の技術移転の形式で養成にとりあつた

10名研修を次の分野で予定している。

1. Public Health Administration
2. Health Education
3. ^{Hygiene and} Health Sanitation
4. Health Statistics

12. 相手国との意見の相違点

マリヤ対策に必要な Malaria Parasitologist,

腸管系寄生虫対策に必要な Parasitologist の

専門家の派遣要請が ^{多額の} 予算上の都合で文書送給

がなされていません。合意のない場合でも送付派遣が

なければ"卒業遂行上支障"をおこします。仰高配下より、

上記伝染病対策の中の学校保健は見込案とはなつて

い本人が"地域とのきつな"という素味で実現させたい

と思っており、結核登録患者中に教師が多いのでまた

別の意味で強く感じていることがあります。

1. 本部との関係

① 材材購送・現地調査案

購送料材の指定金名柄が穿られたよう作配慮ありたし。
(現地到着後あおなひのり出ることあるからである。)

現地調査の枠をなるべく大きくして頂きたい。
(海運・補給が早く、Partsが入手しやすい。通関手不要。)

② 専内派派遣計画

1. Malaricologist (長期)
2. Mosquito Ecologist (")
3. Bacteriologist (")
4. Parasitologist (")
5. Expert on Health education (短期)
6. TB. Bacteriologist (")
7. Specialist on hygiene and sanitation (")
- 8.

③ カウンター・レポート導入：次の分野を予定

1. Public Health Administration
2. Health Education
3. ~~Health~~ Hygiene and Sanitation
4. Health Statistic

④ 調査団派遣計画

右の専内派の分野にたいして調査団の派遣を希望する。

(3) 昭和55年度実績に対する自己評価及び相手国関係者の
の評価ぶりについて

予-4 益足以来年月が経っているのに尚相互間に
磨きかたは無いのは遺憾な点である。その最大の原因は恐らく
は Chief Provincial Service が輸出、輸入の堅自が大きかった
こと、4-6 期は当時の執行のなごりといっているためと思ふ。また
counter budget が用意されているとはいへ WHO の対日経済協力の
なごりの JICA はなごりの相方の連帯性となる場合があるように思ふ。

専門家各位はまことに立派な業績を上げられた。各種の
不自由、制約などは運営の手慮、から生ずる不愉快をよく克服され
所期の、おいとお可とすべし業績を上げられたと感謝している。

短期専門家の一部や長期専門家でも相手国の
Policy を無視には仕つかない。またその中にはつくりかたは
進歩がない。11月に経理11月に急にということになるのらうが呼吸が
なごりかた、つかいし。

新規に着任した Dr. Djahan は2月から定期会合を申入れて
きています。こちらからも申入れて、その実現をおけて無視されるのに
お心には「大変よいこと」一いち相手方の言葉をきいては「まじか
こちらが「お心には」お心には「お心には」お心には「お心には」

(4) 一般無償資金協力の件

無償資金協力により水供給施設の大巾継手を実現
させ頂きたい。開発調査では地下水をくむのではなく表流の
降雨による天水も考慮に入れ帳簿にとりこんで頂きたい。
併せて15系程度の型式の深井戸の実現を希望します。

この対策のためです。建設の進捗については Kota Baru の水と
して Sibare-pare 川の上流にある Sibare-pare 村は JICA の
指定6ヶ村に入っています。毎年多数のこの退避をたじろ Endondic

(No. 10)

地域の一つであり、その平均として現地人住民者中は20%が
能くすくは周囲の環境の改善、安全な水と食料の供給は予
他はないと思つた。この改善で当然多量に必要とする大巾に
インフラや設備に費け入れられ、終業の治癒から予防対策へ病人の
検査から食料・水・健康保蔵者の検査へと変化がみられていた。
州の公共事業事務局責任者によれば、州の目下の計画は各県県方
所在地の給水計画を一手一杯に地方の給水計画は全く考えていない。その
余地がないといふことでした。

5. 事業団本部に対する意見要整理
なし

年次報告書 (昭和55年)

プロジェクト名 看護教育
管轄機関名 保健省職員教育訓練センター
協定期間 昭和53年11月3日～昭和58年11月2日

I はじめに

本プロジェクト OTA-62 は 昭和52年第1回調査団、昭和53年1月第2回調査団の派遣、更に昭和53年8月、昭和53年10月、第3回、第4回の実施協議チームが派遣された。昭和53年11月3日 協賛協力によりウヰズ・パ・29に看護教員養成校、ミカルタに看護教育開発センターの建設のために技術協力によりその充実を図ることを提案し R/D が締結された。その後昭和54年4月に追加協議チームを派遣し中堅技術者養成対策費の予算化が行われた。

昭和54年9月、チームリーダー 永野真氏の派遣により、R/D に基づき本プロジェクトの業務が開始された。

昭和55年5月第1回ジョイントコミティーが開催され昭和54年度協力事業の評価、さらに昭和55年度業務計画について調印、現在この計画にもとづき業務が遂行されている。

II 昭和55年度技術協力計画

1. 主要技術協力事項

- 1) 看護教員養成校カリキュラム開発に関する協力。
- 2) 看護教育教材の開発に関する協力。
 - a) 教科書の開発
 - b) 視聴覚教材の開発
- 3) 看護教育方法の改善に関する協力。

2. 上記目的を達成するために必要な各種委員会の結成

- 1) カリキュラム開発委員会

- 2). 教科書開発委員会
- 3). 教材開発委員会
- 4). その他必要に応じて委員会と結成する。

3. 関連協力事業

1). 専門家の派遣

- a) 長期専門家 2名, 調整員 1名
- b) 短期専門家
 - ① 小児看護専門家 1名
 - ② AVA プログラミングの専門家 1名
 - ③ 内科・外科看護専門家 1名

2). カリキュラム・パート研修員の受入れ

- a). 看護学校管理 2名
- b) AVA トレーニング 1名
- c) 看護教育制度視察 1名
- d) 内科・外科看護研修 1名
- e) 小児看護研修 1名

3). 供字機材

55年度供字機材は金額にして51,844,780円に相当する
機材の零請が12社に個別に行はれぬ。

4. 中堅技術者養成対策費についての活動協力計画

1) 主要協力事項 (現任教育)

- a) 小児看護講習会, スラバヤ, ミヤカルタの2ヶ所を巡回する。
- b) 母子保健・家族計画講習会 ミヤカルタを巡回する。
- c). 内科・外科看護講習会, ウミコパンシ, バビンの2ヶ所を巡回する。

III 55年度業務報告

(55年度技術協力計画にもとづく報告書。)

I 主要技術協力事項

1) 看護教員養成校カリテラム開設に因り協力
昭和54年度イテ社中教育文化局100/24の看護学校教員資格に因り省令にもとづき、カリテラム開設委員会を設けし検討会を下記のように開催し看護教員資格に必要の新カリテラムの作成を行はせし。

1) 第1回 カリテラム検討会 昭和55年5月30日～6月2日。

ミヤルで開催した。

検討内容

看護教員養成校の教育課程に Diploma I, Diploma II,

Diploma III に分ける。各単位数は全体で 110～120 とす。

また AKTA III の必要単位数は 20 とす。また 12712 の検定

内容は 以下の教育内容、到達目標 設定の 2012 必要の

検討期間等、計画、立案をす。また 2回 検討会は 前計画に

とす。実施した。

2) 第2回 カリテラム検討会 昭和55年7月7日～7月10日。

ミヤルで開催。

検討内容

AKTA III について 教育目的、到達目標、教科単位数 20 の教科

科目、教育内容、教育時間数 12712 決定した。

3) 第3回 カリテラム検討会 昭和55年11月10日～11月13日。

バンで開催。

検討内容

Diploma の教育は 5つの専門分野、内・外科看護、小児看護

母子保健家族計画、精神科看護、公衆衛生看護に分かたす。

Diploma I, Diploma II は 45 単位とし 教育目標、到達目標、教科項目、内容、時間数等を決定した。

d) 第4回 カリテツク研究会 は 昭和 56 年 1 月に スラハチで 開催予定である。

主な検討項目は Diploma III に ついてである。

2) 看護教育教材開発に関する協力

a) 教科書の開発については、看護専門基礎、小児看護、母性看護看護一般、内科、外科看護の分野より 1500 冊程度の日本語の翻訳が完了し下記に 製本印刷の作業が開始された。

① 小児看護学 I 2000 冊 (55 年 12 月 出版)

② 小児看護学 II 2000 冊

③ 小児看護学 III 1000 冊

④ 内科外科看護学 I 1000 冊

⑤ 保健看護教育おとあ 1000 冊

②~⑤ については 55 年度予算内で 56 年 3 月までに完成の予定である。

b) 視聴覚教材開発については、現在 整備協力に努めて 視聴覚教育スタッフの育成を待たず 54 年度 母子教材の 内刊 看護教育教材 V.T.R カセットの 日本語の 翻訳完了に 吹替製作を進めている。なお ^{55 年度} 吹替完了 12 月号の 通である。

① 口腔清拭 I

② 口腔清拭 II

③ 義歯の手入

④ 皮膚と指膜

⑤ 皮膚、損傷

⑥ 洗髪 I

⑦ 洗髪 II

- ⑧ 全身清拭 112 8 巻
- ⑨ 無菌操作
- ⑩ 救急外来看護
- ⑪ ホワイカニフ
- ⑫ 注射
- ⑬ 巻法
- ⑭ 穿刺工
- ⑮ 穿刺工
- ⑯ 片麻痺の看護工
- ⑰ 片麻痺の看護工

以上 24 巻。 以上 55 年度、身体シリーズ 10 巻、病態シリーズ 15 巻の番付表が決定した。

- 3). 看護教育方法の改善に因りて協力 112 は 現任教育講習会 112 の企画検討会に参加し 助言を行つた。

2. 各種委員会 の 結成 112.

112 年度の看護教育に因りて人材不足が原因となり、1つの委員会が結成されたのである。

- 1) 加計 234 開発委員会、その活動は前述の通りである。
- 2) 教科書開発委員会を正式に結成された。新編教科書作成は本系はかつて、番付表を中心として教科書作成のためにとつた。
- 3) 教科書開発委員会 112 は 2) と同様である。しかし 視聴覚教科書作成は 日本側佐長の VTR カセットのイデオロギイに着手し、昭和 56 年度 AVA スタディ完成後の活動の動機づけが本系と別に 各現任教育講習会から 看護学校 112 の活動 112 である。

3 関連協力事業

1) 専門家の派遣について

a) 長期専門家として

藤内政子 子育センター 昭和55年8月22日～57年8月21日

吉田春弘 看護教育 昭和55年8月22日～57年8月21日

会津碩嗣 調整員 昭和54年9月1日～56年8月31日

なお 昭和54年9月12日派遣された子育センター 永野貞代は
その任期中に終り 55年9月11日に帰国した。

b) 短期専門家の派遣について。55年度計画された4名の 看護専門家としての派遣は行われなかった。しかし、昭和55年5月、12月の イベントコーナーに次の専門家を派遣した。

三田 晴子 厚生省看護教育研修センター所長

昭和55年5月25日～6月7日、昭和55年12月13日～12月26日

松下 初子 聖ルカ看護大学教授 昭和55年5月25日～6月7日

竹内 一郎 国際看護交流協会事務局長 昭和55年12月16日～12月22日

小児看護、内・外科看護の専門家派遣は、55年度に比べ長期
専門家での派遣をみられた。

AVAプログラムでの専門家の派遣については、昭和56年
3月頃に予定されている。

2) 研修員受け入れについて

55年度当初6名の研修員受け入れについて、1例のみ受諾
された。55年度研修員受け入れは4名に決定された。
しかし、後日6名の追加が認められ、5名の研修員を
派遣することになった。

Mr. ヴリアート: ウェストバングラデシュ省教育委員会委員長, 看護学校管理 総務

昭和55年5月17日 ~ 55年6月16日.

Mrs. スハルター: スラバヤ看護教育委員会委員長, 看護学校管理 総務

昭和55年5月17日 ~ 55年6月16日

Dr. コホノト. イサ: 保健省職員教育訓練センター所長, 看護教育制度 総務

昭和55年9月24日 ~ 55年10月3日

Ms. エーデル・フーアン: スラバヤ看護教育委員会委員, 内外科看護学の研修

昭和55年11月20日 ~ 56年10月31日.

Miss スラストライ: バンドン看護教育委員会委員, 小児看護学の研修

昭和55年11月20日 ~ 56年10月31日.

なお AVA 技術者養成所 (SMA 2007327) の計画に於いて JICA
JAKARTA 事務所を通じて55年度内貸付の準備に於いて既に
コミターの結果、無償協力への建物の完成、引渡し、設備
等の関係から昭和56年6月頃完成予定に於いて。

3). 貸付機材

55年度貸付機材は、金額に於いて 22000.000 円は 邦産製
機材が エヤカル、DCNE, ウェストバングラ. HNTS に
貸付された。

なお 機材は 昭和56年3月に到着 予定である。

4. 中堅技術者養成所 運営に於いての 活動協力計画に於いて

1). 主要協力事項 (現任教育)

当初の計画に於いて 実施された

a. 小児看護講習会, エヤカルに於いて 昭和55年9月22日より

11月1日まで, スラバヤに於いて 昭和55年9月29日より 11月9日まで
の6回以内。

b. 母子保健, 家族計画講習会に エヤカルに於いて 昭和

55年11月17日より12月27日の6週内開催。

c). 内科、外科看護講習会はウヰヰバツシ、HNTS、バンドンのHUTP
で昭和56年1月に開催予定である。

2). 国際協力の事業として各講習会に15冊の資料の翻訳
を行う。

A. 日本語を英語に翻訳

① 外科的諸問題を看護の看護

② 小児看護学、母性看護学カリテツカガイダンス

B. 英語を英語に翻訳

母子保健、家庭計画に関する資料。

以上、昭和55年5月両国間の確認された業務
計画に於いて現在業務は遂行中である。12月現在
ではその約八割が完了した。

55年度末には Diploma Ⅲ の資格取得カリテツカ
の決定、内外科看護講習会(6週内)が決定した。

予定教材開発の目的の答を急の作成、VTR教材への
の1対1の指導の一時の暫しの作業を進め予定である。

業務は、母性看護に進行しては問題として翻訳
物の作業は年内かかるとしてある。これは翻訳者の限ら
れ人数は5名程度と予定される。

IV 56年度業務計画

昭和55年12月18日ジョイントコミティーロムにて両国間で合意した事項は次の通りである。

- 1 56年の主要協力事項
 - 1) 看護教員養成校 (エドワーズ, ウェズバンタン, スラバヤ, バンドン) 4校の看護教育プログラムの開発
 - 2) 看護教育カリテラ 開発
 - 3) 看護教育方法の改善
 - 4) 看護教育教材の開発

- 2 看護教育開発センター (D.C.M.E) 組織・機構の機能の確立
昭和55年3月末に新建物に移設(か)行われる。従って新組織・機構の早期確立が重要であり、その機能の円滑な運営に力をつけることが必要である。
 - 1) 新組織・機構は別添の通りであり、各大学に依り人員の増加が行われる。
 - 2) その機能は上記主要協力事項の運営を行政・運営と円滑に行なうために下記の委員会を設置する。
 - a) カリテラ 開発委員会
 - b) 看護教科書作成・開発委員会
 - c) 看護教材開発委員会
 - d) その他必要と認めらるる委員会。

- 3 関連協力事業
 - 1) 専門家の訓練
 - a) 長期専門家については昭和55年より引き続き
 - ① ティーラー・看護教育担当者・調整員が継続的。
 - ② AVA 専門家の訓練
 - ③ ウェズバンタン教員養成校への長期・短期の専門家

の派遣については、さらに検討を要する。

4. 短期専門家の派遣について

- ① AVA 技術者
- ② AVA プログラミング
- ③ 内・外科看護
- ④ 精神科看護
- ⑤ 小児看護
- ⑥ その他必要に応じて上記専門分野以外の専門家

2) 研修員の受け入れについて

- | | | |
|-------------------|--------------|----|
| a. AVA プログラミング 研修 | D.C.N.E | 1名 |
| b. AVA 技術研修 | D.C.N.E | 1名 |
| c. 内科外科看護 | エカクル、ウミンカクシ | 2名 |
| d. 小児看護 | エカクル | 1名 |
| e. 看護管理 | D.C.N.E. パート | 2名 |

以上7名の研修員派遣を希望する。

3) 供車機材については 2月下旬までにそのリストを作成する。

4. 中堅技術者養成対象者についての活動計画

1) 主要協力事項 (現任教育講習会)

- a. AVA プログラミング 講習会 2週内 D.C.N.E 1名
- b. 視聴覚教材開発講習会 2週内 D.C.N.E 1名
- c. 小児看護講習会 6週内 アズミカクシ
- d. 内科外科看護講習会 6週内 D.C.N.E
- e. 母子保健・家族計画講習会 6週内 スコバ
- f. その他必要に応じて上記看護講習会を企画する。

2) 現任教育講習会 6 コースのうちの一部、特に教材開発に
協力可也。

上記 56年度業務計画を遂行するにあたり下記の点は
留意し協力を行わなければならない。

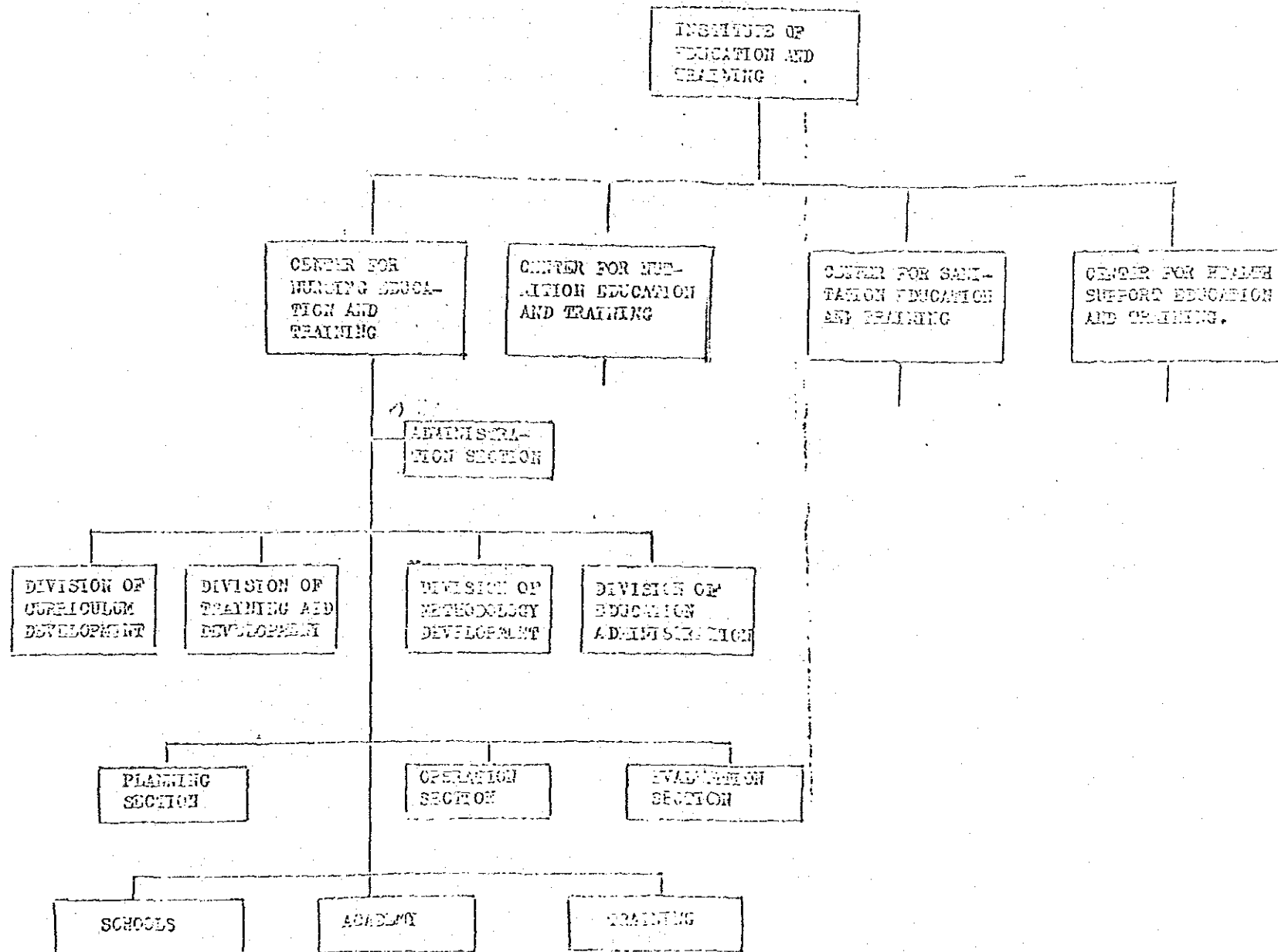
1. カリキュラム開発の協力については新制度の Diploma I が
昭和 56年 7月より実施されるため、その教授方法および
評価に留意を要する。

2. 教材開発において特に Audio Visual Aid の活用
のためその教材作成を進めて行わなければならない。

3. D.C.N.E の建物完成に際し日本からの電子機材の
正しい使用方法の伝達、訓練が必要となる。またウヰズニ
ハンダン教員養成校を3月末には新校舎に移転するため
D.C.N.E 同様電子機材の使用、訓練も必要となる。

本プロジェクトの技術協力の対象は香溪教員養成校であり、特に
ウヰズニハンダン教員養成校は、そのモデル校である。したがってモデル校
へ日本から長期若くは短期専門家の派遣が必要であると
考へる。この件について国内委員会において検討された。

PROPOSED ORGANIZATION STRUCTURE OF D.C.H.D. CENTER FOR EDUCATION AND TRAINING
 DEPARTMENT OF HEALTH, REPUBLIC OF INDONESIA.-



JAKARTA, DECEMBER 19, 1960.

